

○ 土地改良事業等請負工事標準歩掛について（昭和 58 年 2 月 28 日 58 構改D第 148 号農林水産省構造改善局長通知）新旧対照表

(下線部は改正部分)

改 正 後	現 行																																								
<p>1. 土 工</p> <p>①・② [略]</p> <p>③ 振動ローラ締固め</p> <p>1.・2. [略]</p> <p>3. 単価表</p> <p>(1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>機 械 名</th> <th>規 格</th> <th>適用単価表</th> <th>指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級</td> <td>機-28</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>17</u> 機械賃料数量→1.60</td> </tr> <tr> <td>振 動 ロ ー ラ</td> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t 級</td> <td>機-31</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>5.7</u> 機械賃料数量→1.44</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ [略]</p> <p>⑤ 不整地運搬</p> <p>1.～4. [略]</p> <p>5. 単価表</p> <p>(1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>機 械 名</th> <th>規 格</th> <th>適用単価表</th> <th>指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不 整 地 運 搬 車</td> <td>排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t</td> <td>機-18</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>140</u> 機械損料数量→1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑥ [略]</p>	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>17</u> 機械賃料数量→1.60	振 動 ロ ー ラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>5.7</u> 機械賃料数量→1.44	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>140</u> 機械損料数量→1.67	<p>1. 土 工</p> <p>①・② [略]</p> <p>③ 振動ローラ締固め</p> <p>1.・2. [略]</p> <p>3. 単価表</p> <p>(1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>機 械 名</th> <th>規 格</th> <th>適用単価表</th> <th>指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振 動 ロ ー ラ</td> <td>排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級</td> <td>機-28</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>15</u> 機械賃料数量→1.60</td> </tr> <tr> <td>振 動 ロ ー ラ</td> <td>ハンドガイド式 0.8～1.1t 級</td> <td>機-31</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>5.3</u> 機械賃料数量→1.44</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ [略]</p> <p>⑤ 不整地運搬</p> <p>1.～4. [略]</p> <p>5. 単価表</p> <p>(1) [略]</p> <p>(2) 機械運転単価表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>機 械 名</th> <th>規 格</th> <th>適用単価表</th> <th>指 定 事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不 整 地 運 搬 車</td> <td>排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t</td> <td>機-18</td> <td>運転労務数量→1.00 燃料消費量→<u>161</u> 機械損料数量→1.67</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑥ [略]</p>	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>15</u> 機械賃料数量→1.60	振 動 ロ ー ラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>5.3</u> 機械賃料数量→1.44	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>161</u> 機械損料数量→1.67
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																						
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>17</u> 機械賃料数量→1.60																																						
振 動 ロ ー ラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>5.7</u> 機械賃料数量→1.44																																						
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																						
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>140</u> 機械損料数量→1.67																																						
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																						
振 動 ロ ー ラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンパインド型 3～4t 級	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>15</u> 機械賃料数量→1.60																																						
振 動 ロ ー ラ	ハンドガイド式 0.8～1.1t 級	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>5.3</u> 機械賃料数量→1.44																																						
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項																																						
不 整 地 運 搬 車	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型・油圧ダンプ式 8.0～11.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>161</u> 機械損料数量→1.67																																						

## 2. 共通工

①～⑤ [略]

⑥ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ～3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>30</u> 機械損料数量→2.08
	クローラ型・油圧ダンプ式積載質量 4.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>65</u> 機械損料数量→1.55

⑦～⑨ [略]

⑩ 安定処理工（自走式土質改良工）

1. ～3. [略]

4. 土質改良工

土質改良工は、固化材投入、改良対象土投入、攪拌・土質改良までの作業とする。

4-1 機種を選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表4.1 機種を選定

作 業 種 別	機 械 名	規 格	単 位	数 量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] 機械質量20 t 級	台	1
改 良 対 象 土 投 入	<u>バックホウ</u>	超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） <u>クローラ型</u> 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ）	〃	1

(注) 1.・2. [略]

4-2～4-5 [略]

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	[解砕・固化材混合式] 機械質量20 t 級	機-24	燃料消費量→ <u>122</u> 機械損料数量→1.82
<u>バックホウ</u>	超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） <u>クローラ型</u> 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>99</u> 機械賃料数量→1.80

## 2. 共通工

①～⑤ [略]

⑥ 機械（不整地運搬車）小運搬

1. ～3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・クレーン装置付積載質量 3.5t クレーン装置2t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>35</u> 機械損料数量→2.08
	クローラ型・油圧ダンプ式積載質量 4.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>76</u> 機械損料数量→1.55

⑦～⑨ [略]

⑩ 安定処理工（自走式土質改良工）

1. ～3. [略]

4. 土質改良工

土質改良工は、固化材投入、改良対象土投入、攪拌・土質改良までの作業とする。

4-1 機種を選定

使用する機械の機種・規格は次表を標準とする。

表4.1 機種を選定

作 業 種 別	機 械 名	規 格	単 位	数 量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式] 機械質量20 t 級	台	1
改 良 対 象 土 投 入	<u>バックホウ</u> <u>(クローラ型)</u>	超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ）	〃	1

(注) 1.・2. [略]

4-2～4-5 [略]

5. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
自 走 式 土 質 改 良 機 運 転	[解砕・固化材混合式] 機械質量20 t 級	機-24	燃料消費量→ <u>115</u> 機械損料数量→1.82
<u>バックホウ (クローラ型)</u>	超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.8m <sup>3</sup> （平積0.6m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>105</u> 機械賃料数量→1.80

## 4. 基礎工

### ① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1. ～5. [略]

#### 6. 諸雑費

諸雑費は、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に表 6. 1、表 6. 2 の率を乗じた金額を計上する。

##### (1) 鋼管杭

鋼管杭打設による諸雑費は、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、鋼管吊具、吊ワイヤー、先端補強バンド、ヤットコ、溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を使用できる。

表 6. 1 諸雑費率(鋼管杭) (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	34
継杭有り	<u>15</u>

(2) [略]

#### 7. 単価表

(1) [略]

##### (2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.75 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ/日)
			2t	<u>87</u>
			4～4.5t	<u>129</u>
			6.5～8t	<u>148</u>
			10～12.5t	<u>177</u>
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>3.5</u> 機械賃料数量 →1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラジシブ型排出ガス対 策型(第2次基準値) 50～55t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →27 機械損料数量 →1.12	

### ② 既製杭の杭頭処理工

1. ・2. [略]

#### 3. 単価表

(1) [略]

## 4. 基礎工

### ① 鋼管・既製コンクリート杭工（パイルハンマ工）

1. ～5. [略]

#### 6. 諸雑費

諸雑費は、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に表 6. 1、表 6. 2 の率を乗じた金額を計上する。

##### (1) 鋼管杭

鋼管杭打設による諸雑費は、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、鋼管吊具、吊ワイヤー、先端補強バンド、ヤットコ、溶接機の損料、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、電力に関する経費、溶接ワイヤー等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を使用できる。

表 6. 1 諸雑費率(鋼管杭) (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	34
継杭有り	<u>16</u>

(2) [略]

#### 7. 単価表

(1) [略]

##### (2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項	
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.75 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			ラム質量	燃料消費量 (ℓ/日)
			2t	<u>85</u>
			4～4.5t	<u>123</u>
			6.5～8t	<u>123</u>
			10～12.5t	<u>160</u>
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>3.8</u> 機械賃料数量 →1.6	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラジシブ型排出ガス対 策型(第2次基準値) 50～55t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →27 機械損料数量 →1.12	

### ② 既製杭の杭頭処理工

1. ・2. [略]

#### 3. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
電気溶接機	直流アーク式 排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	機-12	燃料消費量→27

③ [略]

④ 鋼管・既製コンクリート杭工 (中掘工)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械の機種・規格と適用杭径は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機種	規格	単位	数量				摘要
			施工杭径 φ400mm以上 φ800mm未満		施工杭径 φ800mm以上 φ1,000mm未満	施工杭径 φ1,000mm	
			掘削長 32m以下	掘削長 32m超え			
クローラ式 アースオーガ	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 55kW 公称杭径 φ400～ 1,200mm リーダ長 21～33m	台	1	—	—	—	打撃方式 で施工す る場合の モンケン 10t を含 む。
	アースオーガ中掘機・ 直結三点支持式 オーガ出力 90kW 公称杭径 φ400～ 1,200mm リーダ長 21～33m	”	—	1	1	1	
クローラクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 50～55t 吊	”	1	—	1	—	
	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 80t 吊	”	—	—	—	1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	”	1	—	1	1	掘削土の 処理作業 (穴埋作 業及び簡 易な整正 を含む)

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
電気溶接機	排出ガス対策型 (第1次基準値) ディーゼルエンジン付300A	機-12	燃料消費量→32

③ [略]

④ 鋼管・既製コンクリート杭工 (中掘工)

1.・2. [略]

3. 機種を選定

施工機械の機種・規格と適用杭径は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

機種	規格	単位	数量				摘要
			施工杭径 φ400mm以上 φ800mm未満		施工杭径 φ800mm以上 φ1,000mm未満	施工杭径 φ1,000mm	
			掘削長 32m以下	掘削長 32m超え			
アースオーガ 中掘機 (油圧押込機構装備)	モンケン 10t オーガ出力 55kW	台	1	—	—	—	打撃施工 する場合 のみ、モ ンケン を装 備す る。
	モンケン 10t オーガ出力 90kW	”	—	1	1	1	
クローラクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 50～55t 吊	”	1	—	1	—	
	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式 ウインチ・ラジジブ型 80t 吊	”	—	—	—	1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	”	1	—	1	1	掘削土の 処理作業 (穴埋作 業及び簡 易な整正 を含む)

4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、労務費、機械損料及び運転経費の合計金額に表 5. 7～表 5. 10 の率を乗じた金額を計上する。

5-3-1 鋼管杭（打撃方式）

中掘工（打撃打止め）による鋼管杭打込の諸雑費は、溶接棒、現場溶接にて行う杭先端加工費（労務費、材料費を含む。）、鋼管吊具、吊ワイヤー、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）の運転、電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 7 諸雑費率（鋼管杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	27
継杭有り	<u>27</u>

(注) [略]

5-3-2 既製コンクリート杭（打撃方式）

中掘工（打撃打止め）による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、溶接棒、吊ワイヤー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）の運転、電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 8 諸雑費率（既製コンクリート杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	9
継杭有り	<u>22</u>

5-3-3 鋼管杭（グラウト方式）

中掘工（グラウト注入）による鋼管杭打込の諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒、現場溶接にて行う杭先端加工費（労務費、材料費を含む。）、鋼管吊具、吊ワイヤー、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 9 諸雑費率（鋼管杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	<u>51</u>
継杭有り	<u>36</u>

(注) 1.・2. [略]

5-3-4 既製コンクリート杭（グラウト方式）

中掘工（グラウト注入）による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒、吊ワイヤー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 10 諸雑費率（既製コンクリート杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	<u>35</u>
継杭有り	<u>31</u>

(注) [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

諸雑費は、労務費、機械損料及び運転経費の合計金額に表 5. 7～表 5. 10 の率を乗じた金額を計上する。

5-3-1 鋼管杭（打撃方式）

中掘工（打撃打止め）による鋼管杭打込の諸雑費は、溶接棒、現場溶接にて行う杭先端加工費（労務費、材料費を含む。）、鋼管吊具、吊ワイヤー、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）の運転、電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 7 諸雑費率（鋼管杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	27
継杭有り	<u>29</u>

(注) [略]

5-3-2 既製コンクリート杭（打撃方式）

中掘工（打撃打止め）による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、溶接棒、吊ワイヤー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）の運転、電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 8 諸雑費率（既製コンクリート杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	9
継杭有り	<u>23</u>

5-3-3 鋼管杭（グラウト方式）

中掘工（グラウト注入）による鋼管杭打込の諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒、現場溶接にて行う杭先端加工費（労務費、材料費を含む。）、鋼管吊具、吊ワイヤー、裏当てリング及びストッパー、銅バンド、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無及びずれ止め、ずれ止め用ストッパーの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 9 諸雑費率（鋼管杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	<u>52</u>
継杭有り	<u>38</u>

(注) 1.・2. [略]

5-3-4 既製コンクリート杭（グラウト方式）

中掘工（グラウト注入）による既製コンクリート杭打込の諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒、吊ワイヤー、オーガスクリュ、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用できる。

表 5. 10 諸雑費率（既製コンクリート杭） (%)

継杭の有無	諸雑費率
継杭無し	<u>36</u>
継杭有り	<u>33</u>

(注) [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 55kW 公称杭径 φ400~1,200mm リーダ長 21~33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →64 機械損料数量 →1.50
〃	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力 90kW 公称杭径 φ400~1,200mm リーダ長 21~33m	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →81 機械損料数量 →1.50
クローラクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型 50~55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →51 機械損料数量 →1.45
〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型 80t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →66 機械損料数量 →1.45
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →37 機械損料数量 →1.50

⑤ 場所打杭工 (大口径ボーリングマシン工)

1. ~13. [略]

14. 単価表

(1)~(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大口径ボーリングマシン	図3-1	機-25	機械損料数量→1.33
ウ イ ン チ	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/分	機-25	機械損料数量→1.41
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 75 kVA (19kW級用) 100kVA (30kW級用)	機-16	燃料消費量 75kVA→37 100kVA→60 機械賃料数量→1.3

⑥ 場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工)

1. ~7. [略]

8. 諸雑費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材 (B工法のみ)、テーブルマシンの足場材 (C工法のみ)、溶接材、ボルト・ナット、電気溶接機、インパクトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、やぐら装置 (B工法のみ)、グラウトポンプ (モルタル圧送用)、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーバタンク、リーダ・減速機 (A工法のみ)、テーブルマシン (C工法のみ)の損料、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 8.1 諸雑费率 (A工法、B工法、C工法) (%)

諸 雑 費 率	29
---------	----

(注) 1. [略]

2. 補助ウインチ損料、補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び仮設足場等の設

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アースオーガ併用中掘機 (油圧押込機構装備)	モンケン 10t オーガ出力 55kW	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →61 機械損料数量 →1.50
〃	モンケン 10t オーガ出力 90kW	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →77 機械損料数量 →1.50
クローラクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型 50~55t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →51 機械損料数量 →1.45
〃	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧駆動式ウインチ・ラジジブ型 80t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →66 機械損料数量 →1.45
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-18	運転労務数 →1.00 量燃料消費量 →39 機械損料数量 →1.50

⑤ 場所打杭工 (大口径ボーリングマシン工)

1. ~13. [略]

14. 単価表

(1)~(3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大口径ボーリングマシン	図3-1	機-25	機械損料数量→1.33
ウ イ ン チ	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/分	機-25	機械損料数量→1.41
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 75 kVA (19kW級用) 100kVA (30kW級用)	機-16	燃料消費量 75kVA→43 100kVA→73 機械賃料数量→1.3

⑥ 場所打杭工 (ダウンザホールハンマ工)

1. ~7. [略]

8. 諸雑費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材 (B工法のみ)、テーブルマシンの足場材 (C工法のみ)、溶接材、ボルト・ナット、電気溶接機、インパクトレンチ、トルクレンチ、注入管、高圧ホース、やぐら装置 (B工法のみ)、グラウトポンプ (モルタル圧送用)、コンクリートバケット、土砂ホッパ、レシーバタンク、リーダ・減速機 (A工法のみ)、テーブルマシン (C工法のみ)の損料、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を 上限として 計上する。

表 8.1 諸雑费率 (A工法、B工法、C工法) (%)

諸 雑 費 率	28
---------	----

(注) 1. [略]

2. 補助ウインチ損料、補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び仮設足場等の設

置・撤去の費用は諸雑費の対象額としない。

9.・10. [略]

11. 単価表

(1)～(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
大口径ボーリングマシン	図 3. 2	機-25	機械損料数量→1.28	
空 気 圧 縮 機	表 3. 6	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする。	
			規 格	数 量
			7.5～7.8m <sup>3</sup> /min	<u>59</u>
			18～19m <sup>3</sup> /min	<u>114</u>
			機械賃料数量→ 1.33	
ダウンザホールハンマ	空圧式 表 3. 5	機-25	機械損料数量→ 1.37	
ウ イ ン チ (やぐら設置・撤去用)	開放型(電動)・単胴 巻上能力 2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	機-25	機械損料数量→ 1.55	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量 75 kVA	機-16	燃料消費量 → <u>51</u> 機械賃料数量→ 1.18	
ラフテレーンクレーン (掘削用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.63 燃料消費量 → <u>84</u>	
クローラクレーン (掘削用)	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型(第2次基準値) 50～55t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.08 燃料消費量 → 60	
ラフテレーンクレーン (鋼管杭・H形鋼杭建込用掘 削機組立・分解用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.02 燃料消費量 → <u>84</u>	

⑦ 場所打杭工 (アースオーガ工・硬質地盤アースオーガ)

1.～9. [略]

10. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式 アースオーガ	表 3. 1	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.58 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			規 格	燃料消費量(ℓ/日)
			45kW	<u>51</u>
			55kW	<u>69</u>
			90kW	<u>58</u>
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型排出ガス対策型 (第2次基準値) 30～35t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.58 燃料消費量 →54	

置・撤去の費用は諸雑費の対象としない。

9.・10. [略]

11. 単価表

(1)～(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
大口径ボーリングマシン	図 3. 2	機-25	機械損料数量→1.28	
空 気 圧 縮 機	表 3. 6	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする。	
			規 格	数 量
			7.5～7.8m <sup>3</sup> /min	<u>66</u>
			18～19m <sup>3</sup> /min	<u>156</u>
			機械賃料数量→ 1.33	
ダウンザホールハンマ	空圧式 表 3. 5	機-25	機械損料数量→ 1.37	
ウ イ ン チ (やぐら設置・撤去用)	開放型(電動)・単胴 巻上能力 2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	機-25	機械損料数量→ 1.55	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量 75 kVA	機-16	燃料消費量 → <u>60</u> 機械賃料数量→ 1.18	
ラフテレーンクレーン (掘削用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.63 燃料消費量 → <u>102</u>	
クローラクレーン (掘削用)	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排 出ガス対策型(第2次基準値) 50～55t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.08 燃料消費量 → 60	
ラフテレーンクレーン (鋼管杭・H形鋼杭建込用掘 削機組立・分解用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.02 燃料消費量 → <u>102</u>	

⑦ 場所打杭工 (アースオーガ工・硬質地盤アースオーガ)

1.～9. [略]

10. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
クローラ式 アースオーガ	表 3. 1	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.58 燃料消費量 →下記のとおりとする。	
			規 格	燃料消費量(ℓ/日)
			45kW	<u>49</u>
			55kW	<u>63</u>
			90kW	<u>56</u>
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型排出ガス対策型 (第2次基準値) 30～35t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 機械損料数量 →1.58 燃料消費量 →54	

⑧ 場所打杭工（リバーサーキュレーション工）

1. ～ 7. [略]

8. 諸雑費

杭1本当りの諸雑費は、鉄筋かご建込み時の溶接材、プランジャ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、スタンドパイプ・トレミー管・電気溶接機・ドリルパイプ・サクシオンホース・デリバリーホース・工事用水中モーターポンプ・三翼ビット・ハンマグラブ及びハンマクラウンの損料、電力に関する経費、杭頭処理等の費用であり、労務費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表8.1 諸雑费率 (%)

工 法	A工法・B工法
諸 雑 費 率	<u>30</u>

9. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値)	機-28	運転労務数量 →1.00
	クローラ型 山積0.50m <sup>3</sup> (平積0.40m <sup>3</sup> )		燃 料 消 費 量 → <u>42</u> 機 械 賃 料 数 量 →1.28
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジック型 排出ガス対策型(第1次基準値) 50t吊	機-27	燃 料 消 費 量 →60 機 械 賃 料 数 量 →1.00

⑨ 軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）

1. ～ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、改良後の整地に要する費用、電力に関する経費等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、変位低減型の場合は、諸雑费率に排土用・排土処理（現場内仮置き）に関する費用を含む。

表5.9 諸雑费率 (%)

規 格	杭 径	打設長 (L)	諸 雑 費 率
単 軸 施 工	φ 800～1,200mm	3 mを超え 10m以下	<u>20</u>
	φ 1,000～1,600mm	10mを超え 30m以下	<u>18</u>
	φ 1,800mm φ 2,000mm	3 mを超え 27m以下	31
二 軸 施 工	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>23</u>
二 軸 施 工 ( 変 位 低 減 型 )	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>26</u>
	φ 1,600mm	3 mを超え 36m以下	<u>31</u>

5-4・5-5 [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

⑧ 場所打杭工（リバーサーキュレーション工）

1. ～ 7. [略]

8. 諸雑費

杭1本当りの諸雑費は、鉄筋かご建込み時の溶接材、プランジャ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、スタンドパイプ・トレミー管・電気溶接機・ドリルパイプ・サクシオンホース・デリバリーホース・工事用水中モーターポンプ・三翼ビット・ハンマグラブ及びハンマクラウンの損料、電力に関する経費、杭頭処理等の費用であり、労務費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表8.1 諸雑费率 (%)

工 法	A工法・B工法
諸 雑 費 率	<u>31</u>

9. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値)	機-28	運転労務数量 →1.00
	クローラ型 山積0.50m <sup>3</sup> (平積0.40m <sup>3</sup> )		燃 料 消 費 量 → <u>45</u> 機 械 賃 料 数 量 →1.28
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラジック型 排出ガス対策型(第1次基準値) 50t吊	機-27	燃 料 消 費 量 →60 機 械 賃 料 数 量 →1.00

⑨ 軟弱地盤処理工（スラリー攪拌工）

1. ～ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1・5-2 [略]

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、改良後の整地に要する費用、電力に関する経費等であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

なお、変位低減型の場合は、諸雑费率に排土用・排土処理（現場内仮置き）に関する費用を含む。

表5.9 諸雑费率 (%)

規 格	杭 径	打設長 (L)	諸 雑 費 率
単 軸 施 工	φ 800～1,200mm	3 mを超え 10m以下	<u>21</u>
	φ 1,000～1,600mm	10mを超え 30m以下	<u>20</u>
	φ 1,800mm φ 2,000mm	3 mを超え 27m以下	31
二 軸 施 工	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>26</u>
二 軸 施 工 ( 変 位 低 減 型 )	φ 1,000mm	3 mを超え 40m以下	<u>27</u>
	φ 1,600mm	3 mを超え 36m以下	<u>33</u>

5-4・5-5 [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]



(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
深層混合処理機 (スラリー式)	表 3. 1	機-18	運転労務数量→1.00 (単軸施工) 燃料消費量→27.4kN・m×1→ <u>35</u> →110kW×1 20m→ <u>64</u> →110kW×1 30m→ <u>77</u> →90kW×2→ <u>64</u> 機械損料数量→1.59 (二軸施工) 燃料消費量→45kW×2→ <u>37</u> →60kW×2→ <u>40</u> →90kW×2→ <u>58</u> 機械損料数量→1.59
深層混合処理機 (スラリー式) 変位低減型	表 3. 2、表 3. 3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45kW×2 → <u>34</u> →60kW×2 → <u>37</u> →75kW×2 → <u>54</u> →90kW×2 → <u>54</u> →L≤10m 機 → <u>55</u> →L≤20m 機 → <u>55</u> →L≤26m 機 → <u>72</u> →L≤36m 機 → <u>55</u> 機械損料数量→1.59
スラリープラント	表 3. 1~3. 3	機-25	機械損料数量→1.59

⑩ 軟弱地盤処理工 (高圧噴射攪拌工)

1. ~4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 単管工法

5-1-1~5-1-3 [略]

5-1-4 諸雑費

単管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽 (一般工用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 7 単管工法の諸雑費率 (%)

諸雑費率	<u>28</u>
------	-----------

5-1-5 [略]

5-2 二重管工法

5-2-1~5-2-3 [略]

5-2-4 諸雑費

二重管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽 (一般工用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 19 二重管工法の諸雑費率 (%)

項 目	杭 径	
諸雑費率	1,000mm 以上 2,000mm 以下	2,000mm を超え 3,000mm 以下

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
深層混合処理機 (スラリー式)	表 3. 1	機-18	運転労務数量→1.00 (単軸施工) 燃料消費量→27.4kN・m×1→ <u>34</u> →110kW×1 20m→ <u>62</u> →110kW×1 30m→ <u>72</u> →90kW×2→ <u>62</u> 機械損料数量→1.59 (二軸施工) 燃料消費量→45kW×2→ <u>35</u> →60kW×2→ <u>38</u> →90kW×2→ <u>56</u> 機械損料数量→1.59
深層混合処理機 (スラリー式) 変位低減型	表 3. 2、表 3. 3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→45kW×2 → <u>33</u> →60kW×2 → <u>36</u> →75kW×2 → <u>52</u> →90kW×2 → <u>52</u> →L≤10m 機 → <u>53</u> →L≤20m 機 → <u>53</u> →L≤26m 機 → <u>66</u> →L≤36m 機 → <u>53</u> 機械損料数量→1.59
スラリープラント	表 3. 1~3. 3	機-25	機械損料数量→1.59

⑩ 軟弱地盤処理工 (高圧噴射攪拌工)

1. ~4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 単管工法

5-1-1~5-1-3 [略]

5-1-4 諸雑費

単管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽 (一般工用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 7 単管工法の諸雑費率 (%)

諸雑費率	<u>30</u>
------	-----------

5-1-5 [略]

5-2 二重管工法

5-2-1~5-2-3 [略]

5-2-4 諸雑費

二重管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽 (一般工用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 19 二重管工法の諸雑費率 (%)

項 目	杭 径	
諸雑費率	1,000mm 以上 2,000mm 以下	2,000mm を超え 3,000mm 以下

	<u>26</u>	<u>44</u>
--	-----------	-----------

5-2-5 [略]

5-3 三重管工法

5-3-1~5-3-4 [略]

5-3-5 諸雑費

(1) 削孔

三重管工法の削孔1本当り諸雑費は、工事用水中モーターポンプ、水槽（一般工用）の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 27 三重管工法の削孔諸雑費率 (%)

削孔	<u>10</u>
----	-----------

(2) 注入

三重管工法の注入1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽（一般工用）、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 28 三重管工法の注入諸雑費率 (%)

注入	<u>23</u>
----	-----------

5-3-6 [略]

5-4~5-10 [略]

6. 単価表

(1)~(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	機-16	燃 料 消 費 量 → <u>42</u> 機 械 賃 料 数 量 二重管工法→1.40 三重管工法→1.75
	排出ガス対策型(第3次基準値) 可搬式・スクリュ型(低騒音型)・エンジン駆動 吐出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	機-16	燃 料 消 費 量 → <u>127</u> 機 械 賃 料 数 量 →1.30

⑪ 薬液注入工

1.~4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 二重管ストレーナ工法

5-1-1~5-1-3 [略]

5-1-4 諸雑費

二重管ストレーナ工法の1本当り諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、薬液ミキサ、グラウトミキサ、送水ポンプ、送液ポンプ、貯水槽、貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額（水ガラス積算流量計は除く）に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 二重管ストレーナ工法の諸雑費率 (%)

工 法	セ ッ ト 数	諸 雑 費 率
単 相 方 式	2	<u>19</u>
	4	<u>18</u>

	<u>28</u>	<u>46</u>
--	-----------	-----------

5-2-5 [略]

5-3 三重管工法

5-3-1~5-3-4 [略]

5-3-5 諸雑費

(1) 削孔

三重管工法の削孔1本当り諸雑費は、工事用水中モーターポンプ、水槽（一般工用）の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 27 三重管工法の削孔諸雑費率 (%)

削孔	<u>11</u>
----	-----------

(2) 注入

三重管工法の注入1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モーターポンプ、水槽（一般工用）、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 28 三重管工法の注入諸雑費率 (%)

注入	<u>24</u>
----	-----------

5-3-6 [略]

5-4~5-10 [略]

6. 単価表

(1)~(5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型(第1次基準値) 可搬式・スクリュ型・エンジン駆動 吐出量 5m <sup>3</sup> /min 圧力 0.7MPa	機-16	燃 料 消 費 量 → <u>47</u> 機 械 賃 料 数 量 二重管工法→1.40 三重管工法→1.75
	排出ガス対策型(第3次基準値) 可搬式・スクリュ型(低騒音型)・エンジン駆動 吐出量 15m <sup>3</sup> /min 圧力 1.05MPa	機-16	燃 料 消 費 量 → <u>147</u> 機 械 賃 料 数 量 →1.30

⑪ 薬液注入工

1.~4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 二重管ストレーナ工法

5-1-1~5-1-3 [略]

5-1-4 諸雑費

二重管ストレーナ工法の1本当り諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、薬液ミキサ、グラウトミキサ、送水ポンプ、送液ポンプ、貯水槽、貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額（水ガラス積算流量計は除く）に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 二重管ストレーナ工法の諸雑費率 (%)

工 法	セ ッ ト 数	諸 雑 費 率
単 相 方 式	2	<u>20</u>
	4	<u>19</u>

複相方式	2	20
	4	19

5-2 二重管ダブルパッカー工法

5-2-1～5-2-5 [略]

5-2-6 諸雑費

二重管ダブルパッカー工法削孔時の諸雑費は、グラウトポンプ、グラウトミキサ、送水ポンプ、貯水槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、一次注入及び二次注入時の諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、グラウトミキサ、パッカー加圧ポンプ、送水ポンプ、送液ポンプ、貯水槽、貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額（水ガラス積算流量計は除く）に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 12 二重管ダブルパッカー工法の諸雑費率 (%)

条 件	セット数	諸雑費率
削 孔	1	9
	2	6
一 次 注 入	4	26
二 次 注 入 有 機 系	4	25
二 次 注 入 無 機 系	4	20

5-3・5-4 [略]

5-5 排水汚泥土処理費

注入排水、排土などのための処理設備が必要な場合は次表とする。

表 5. 15 排水汚泥土処理費 (1日当り)

名 称	単 位	規 格	数 量
普 通 作 業 員	人		0.8
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	日	φ 50 mm 2.2kW	1.0
ア ル カ リ 水 中 和 装 置	時間	処理能力 6 m <sup>3</sup> /h	6.8
水 槽	供用日	5 m <sup>3</sup>	1.5
諸 雑 費 率	%		20

(注) 1.～4. [略]

5-6・5-7 [略]

6. 単価表

(1)～(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ボ ー リ ン グ マ シ ン	ロータリーハッチ式 クロー型 81kW 級	機-12	燃料消費量→78
トラック (クレーン装置付)	4～4.5t 積 2.9t 吊	機-1	

複相方式	2	21
	4	20

5-2 二重管ダブルパッカー工法

5-2-1～5-2-5 [略]

5-2-6 諸雑費

二重管ダブルパッカー工法削孔時の諸雑費は、グラウトポンプ、グラウトミキサ、送水ポンプ、貯水槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、一次注入及び二次注入時の諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、グラウトミキサ、パッカー加圧ポンプ、送水ポンプ、送液ポンプ、貯水槽、貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額（水ガラス積算流量計は除く）に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 12 二重管ダブルパッカー工法の諸雑費率 (%)

条 件	セット数	諸雑費率
削 孔	1	9
	2	6
一 次 注 入	4	27
二 次 注 入 有 機 系	4	26
二 次 注 入 無 機 系	4	21

5-3・5-4 [略]

5-5 排水汚泥土処理費

注入排水、排土などのための処理設備が必要な場合は次表とする。

表 5. 15 排水汚泥土処理費 (1日当り)

名 称	単 位	規 格	数 量
普 通 作 業 員	人		0.8
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	日	φ 50 mm 2.2kW	1.0
ア ル カ リ 水 中 和 装 置	時間	処理能力 6 m <sup>3</sup> /h	6.8
水 槽	供用日	5 m <sup>3</sup>	1.5
諸 雑 費 率	%		22

(注) 1.～4. [略]

5-6・5-7 [略]

6. 単価表

(1)～(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ボ ー リ ン グ マ シ ン	ロータリーハッチ式 クロー型 81kW 級	機-12	燃料消費量→81
トラック (クレーン装置付)	4～4.5t 積 2.9t 吊	機-1	

## 5. フリューム類据付工

### ① 鉄筋コンクリートフリューム機械据付

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>55</u> 機械賃料数量 →1.43

② [略]

### ③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

1. ~ 5. [略]

#### 6. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>57</u> 機械賃料数量 →1.60
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>99</u> 機械賃料数量 →1.60

④・⑤ [略]

### ⑥ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1. ~ 6. [略]

#### 7. 単価表

(1)・(2) [略]

#### (3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>101</u> 機械賃料数量 →1.35

### ⑦ リフト台車によるプレキャストコンクリート水路据付

## 5. フリューム類据付工

### ① 鉄筋コンクリートフリューム機械据付

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>59</u> 機械賃料数量 →1.43

② [略]

### ③ 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

1. ~ 5. [略]

#### 6. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>61</u> 機械賃料数量 →1.60
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.0 燃料消費量 → <u>105</u> 機械賃料数量 →1.60

④・⑤ [略]

### ⑥ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

1. ~ 6. [略]

#### 7. 単価表

(1)・(2) [略]

#### (3) 機械運転単価表

名称	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> ) 2.9t吊	機-28	運転労務数量→1.0 燃料消費量→ <u>107</u> 機械賃料数量→1.35

### ⑦ リフト台車によるプレキャストコンクリート水路据付

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指定事項
リフト台車	ハング式 6t、15t、25t	機-32	機械賃料数量 →1.25
発動発電機	排出ガス対策型（第2次基準値） ディーゼルエンジン駆動 25KVA	機-16	燃料消費量 → <u>19</u> 機械賃料数量 →1.25

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指定事項
リフト台車	ハング式 6t、15t、25t	機-32	機械賃料数量 →1.25
発動発電機	排出ガス対策型（第2次基準値） ディーゼルエンジン駆動 25KVA	機-16	燃料消費量 → <u>22</u> 機械賃料数量 →1.25

## 6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1.・2. [略]

3. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.055m <sup>3</sup> (平積0.04m <sup>3</sup> )	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>12</u> 機械賃料数量→1.00

③ [略]

④ 消波工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (12) [略]

(13) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
起 重 機 船	表 4. 3	機-26	労 務 数 量 →表 4. 14 機 械 損 料 数 量 →1.89 燃 料 消 費 量 100t 吊→372 120t 吊→417 150t 吊→480 主 燃 料 →重油
引 船	表 4. 3	機-11	単 価 表 単 位 →日 船 員 数 量 →表 4. 15 船 員 数 量 →表 4. 15 機 械 損 料 単 位 →供用日 機 械 損 料 数 量 →1.89 燃 料 消 費 量 鋼 製 450PS 型 35GT→ <u>374</u> 鋼 製 600PS 型 50GT→500 鋼 製 700PS 型 60GT→585 主 燃 料 →重油

## 6. 河川・水路工

① [略]

② サイド・アンダードレーン工

1.・2. [略]

3. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積0.055m <sup>3</sup> (平積0.04m <sup>3</sup> )	機-31	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>13</u> 機械賃料数量→1.00

③ [略]

④ 消波工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (12) [略]

(13) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
起 重 機 船	表 4. 3	機-26	労 務 数 量 →表 4. 14 機 械 損 料 数 量 →1.89 燃 料 消 費 量 100t 吊→372 120t 吊→417 150t 吊→480 主 燃 料 →重油
引 船	表 4. 3	機-11	単 価 表 単 位 →日 船 員 数 量 →表 4. 15 船 員 数 量 →表 4. 15 機 械 損 料 単 位 →供用日 機 械 損 料 数 量 →1.89 燃 料 消 費 量 鋼 製 450PS 型 35GT→ <u>375</u> 鋼 製 600PS 型 50GT→500 鋼 製 700PS 型 60GT→585 主 燃 料 →重油

交 通 船	鋼製 D 50PS 型 4.9t	機-11	単価表単位 →日 船 員 →高級船員 船 員 数 量 →1人 機械損料単価 →供用日 機械損料数量 →1.66 燃 料 消 費 量 →42 主 燃 料 →重油
クローラクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式ウィン チ・ラチスジブ型 低騒音型 100t 吊	機-27	燃 料 消 費 量 →69

⑤ [略]

交 通 船	鋼製 D 50PS 型 4.9t	機-11	単価表単位 →日 船 員 →高級船員 船 員 数 量 →1人 機械損料単価 →供用日 機械損料数量 →1.66 燃 料 消 費 量 →42 主 燃 料 →重油
クローラクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧駆動式ウィン チ・ラチスジブ型 低騒音型 100t 吊	機-27	燃 料 消 費 量 →69

⑤ [略]

## 7. 管水路工

### ① 管水路基礎

1. ～3. [略]

#### 4. 基礎材投入歩掛

バックホウによる基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

規格区分	運転時間 (日)
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )	0.19
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) クローラ型山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	0.09
超低騒音型、排出ガス対策型 (2014年規制) クローラ型山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	0.05

(注) 1.・2. [略]

#### 5. 機種の選定

管水路基礎の締固め機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 締固め機械

機種	規格
タンパ	60～80kg 級
振動コンパクト前進型	40～60kg 級
振動ローラハンドガイド式	0.5～0.6t

#### 6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	運転時間 (日)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	12%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 40～60kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	—
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.5～0.6t	I	0.19	—	0.78	0.08	—
		II	0.22	—	0.84	0.13	
碎石 礫質土 粘性土	タンパ 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	12%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 40～60kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	—
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.5～0.6t	I	0.23	—	0.95	0.08	—
		II	0.26	—	1.01	0.13	

(注) 1. ～3. [略]

### 7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m<sup>3</sup> 当り単価表

## 7. 管水路工

### ① 管水路基礎

1. ～3. [略]

#### 4. 基礎材投入歩掛

バックホウによる基礎材の投入歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 1 投入歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

規格区分	運転時間 (日)
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )	0.19
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	0.09
排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	0.05

(注) 1.・2. [略]

#### 5. 機種の選定

管水路基礎の締固め機械は、次表を標準とする。

表 5. 1 締固め機械

機種	規格
タンパ	60～80kg 級
振動コンパクト前進型	90kg 級
振動ローラハンドガイド式	0.8～1.1t

#### 6. まき出し及び締固め歩掛

表 6. 1 まき出し及び締固め歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

基礎区分	締固め機械	締固め区分	世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	運転時間 (hr)	諸雑費率
砂 砂質土	タンパ 60～80kg 級	I	0.32	0.34	1.09	—	12%
		II	0.43	0.56	1.35	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.25	0.20	0.92	—	—
		II	0.32	0.34	1.09	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1t	I	0.19	—	0.78	0.6	—
		II	0.22	—	0.84	1.0	
碎石 礫質土 粘性土	タンパ 60～80kg 級	I	0.36	0.34	1.26	—	12%
		II	0.47	0.56	1.52	—	
	振動コンパクト 前進型 90kg 級	I	0.29	0.20	1.09	—	—
		II	0.36	0.34	1.26	—	
	振動ローラ ハンドガイド式 0.8～1.1t	I	0.23	—	0.95	0.6	—
		II	0.26	—	1.01	1.0	

(注) 1. ～3. [略]

### 7. 単価表

(1) 管水路基礎 10m<sup>3</sup> 当り単価表



名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m <sup>3</sup>		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.5~0.6t	日		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ運転	超低騒音型、排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型山積〇〇m <sup>3</sup> (平積〇〇m <sup>3</sup> )	日		表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	ハンドガイド式 0.5~0.6t	機-31	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →4.1 機械賃料数量 →1.50
バックホウ	超低騒音型、排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →33 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	超低騒音型、排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →47 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	超低騒音型、排出ガス対策型(2014年規制) クローラ型山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →83 機械賃料数量 →1.58

② [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →44 機械賃料数量 →1.45

④ 強化プラスチック複合管機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械賃料数量→1.12

名称	規格	単位	数量	摘要
基礎材		m <sup>3</sup>		式 3. 1
世話役		人		表 6. 1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.8~1.1t	時間		振動ローラの場合 表 6. 1
バックホウ運転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積〇〇m <sup>3</sup> (平積〇〇m <sup>3</sup> )	日		表 4. 1
計				

(注) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
振動ローラ	ハンドガイド式 0.8~1.1t	機-9	[新設]
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →35 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →50 機械賃料数量 →1.58
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.80m <sup>3</sup> (平積 0.60m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →88 機械賃料数量 →1.58

② [略]

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →47 機械賃料数量 →1.45

④ 強化プラスチック複合管機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ(クレーン機能付)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→51 機械賃料数量→1.12

⑤ ダクティル鑄鉄管機械布設

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K・T形			ALW形	
	1・2種	3・4種、DA種	DB~DD種	AL1種	AL2種
300未満	バックホウ (クレーン機能付) <u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊			バックホウ (クレーン機能付) <u>超低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	
300					
350					
400					
450					
500					
600					
700					
800	ラフテレーンクレーン <u>低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2011年規制) (油圧伸縮ジブ型) 25t 吊			ラフテレーンクレーン <u>低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2011年規制) (油圧伸縮ジブ型) 25t 吊	
900					
1,000					
1,100					
1,200					
1,350					
1,500					
1,600(4m)					
1,600(5m)					
1,650(4m)					
1,650(5m)	ラフテレーンクレーン <u>低騒音型</u> 排出ガス対策型 (2011年規制) (油圧伸縮ジブ型) 50t 吊				
1,800(4m)					
1,800(5m)					
2,000(4m)					
2,000(5m)					
2,000(5m)					

ラフテレーンクレーン  
低騒音型  
排出ガス対策型 (2011年規制)  
(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊

(注) 1. ・ 2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管 (直管) と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

⑤ ダクティル鑄鉄管機械布設

1. ・ 2. [略]

3. 機種の選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表 3. 1 使用機械

管径 (mm)	K形				T形			
	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種	1~2.5種	3~4.5種	5種	DC, DD種
300未満	バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊				バックホウ (クレーン機能付) 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊			
300								
350								
400								
450								
500								
600								
700								
800	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) (油圧伸縮ジブ型) 25t 吊				ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) (油圧伸縮ジブ型) 25t 吊			
900								
1,000								
1,100								
1,200								
1,350								
1,500								
1,600(4m)								
1,600(5m)								
1,650(4m)								
1,650(5m)	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) (油圧伸縮ジブ型) 50t 吊				ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 ( <u>第2次基準値</u> ) (油圧伸縮ジブ型) 50t 吊			
1,800(4m)								
1,800(5m)								
2,000(4m)								
2,000(5m)								
2,000(5m)								

①ラフテレーンクレーン  
排出ガス対策型 (第2次基準値)  
(油圧伸縮ジブ型) 50t 吊

(注) 1. ・ 2. [略]

4. 施工歩掛

布設歩掛は、次表を標準とする。

なお、当該路線内において本管 (直管) と連続的に布設する短管及び異形管は、その管長にかかわらず本管と同じ歩掛を用いるものとする。

表 4. 1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 (1本当り)

管 径 (mm)	管 長 (m)	K 形				T・ALW形			
		世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員	機 械 運 転 時 間	世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員	機 械 運 転 時 間
		(人)			(日)	(人)			(日)
150	5.0	0.03	0.12	0.16	0.09	0.02	0.09	0.11	0.08
200	〃	0.04	0.14	0.19	〃	〃	0.10	0.13	〃
250	〃	0.05	0.15	0.20	0.10	〃	0.11	0.14	〃
300	6.0	〃	0.18	0.23	0.11	0.04	0.13	0.15	0.09
350	〃	〃	0.20	0.25	〃	〃	0.14	0.17	〃
400	〃	〃	0.21	0.26	0.12	〃	〃	0.18	0.10
450	〃	〃	0.22	0.29	0.13	〃	0.16	0.19	〃
500	〃	0.06	0.25	0.30	〃	〃	〃	0.20	0.11
600	〃	0.08	0.32	0.40	0.15	〃	0.18	0.23	〃
700	〃	0.10	0.42	0.52	0.16	〃	0.19	0.25	0.12
800	〃	0.13	0.51	0.64	0.17	0.06	0.21	0.27	0.13
900	〃	0.16	0.63	0.79	0.19	〃	0.23	0.28	0.14
1,000	〃	0.19	0.74	0.93	0.21	〃	0.24	0.31	0.15
1,100	〃	0.23	0.88	1.10	0.23	0.07	0.26	0.33	0.16
1,200	〃	0.26	1.03	1.29	0.25	〃	0.27	0.34	0.17
1,350	〃	0.33	1.28	1.61	0.28	〃	0.30	0.37	0.18
1,500	〃	0.37	1.51	1.89	0.32	〃	0.31	0.40	0.20
1,600	4.0	0.32	1.29	1.62	0.27	〃	〃	0.39	0.18
〃	5.0	0.38	1.50	1.88	0.31	〃	〃	0.41	0.20
1,650	4.0	0.36	1.39	1.76	0.28	0.08	0.32	0.40	0.19
〃	5.0	0.39	1.61	2.03	0.32	〃	〃	0.42	0.20
1,800	4.0	0.41	1.63	〃	0.31	〃	0.33	〃	〃
〃	5.0	0.47	1.88	2.34	0.37	〃	0.35	〃	0.22
2,000	4.0	0.50	2.03	2.53	〃	0.10	0.36	0.46	〃
〃	5.0	0.60	2.37	2.97	0.45	〃	0.38	〃	0.25

(注) 1.・2. [略]

3. 管の製作範囲は、型式及び管種により違うためJISまたはJDP Aを参照し適用すること。

5. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設1本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
諸 雑 費		式	1	表4.1(注)2
世 話 役		人		表4.1
特 殊 作 業 員		〃		〃

表 4. 1 ダクタイル鋳鉄管布設歩掛 (1本当り)

管 径 (mm)	管 長 (m)	K 形				T 形			
		世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員	機 械 運 転 時 間	世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員	機 械 運 転 時 間
		(人)			(日)	(人)			(日)
150	5.0	0.03	0.12	0.16	0.09	0.02	0.09	0.11	0.08
200	〃	0.04	0.14	0.19	〃	〃	0.10	0.13	〃
250	〃	0.05	0.15	0.20	0.10	〃	0.11	0.14	〃
300	6.0	〃	0.18	0.23	0.11	0.04	0.13	0.15	0.09
350	〃	〃	0.20	0.25	〃	〃	0.14	0.17	〃
400	〃	〃	0.21	0.26	0.12	〃	〃	0.18	0.10
450	〃	〃	0.22	0.29	0.13	〃	0.16	0.19	〃
500	〃	0.06	0.25	0.30	〃	〃	〃	0.20	0.11
600	〃	0.08	0.32	0.40	0.15	〃	0.18	0.23	〃
700	〃	0.10	0.42	0.52	0.16	〃	0.19	0.25	0.12
800	〃	0.13	0.51	0.64	0.17	0.06	0.21	0.27	0.13
900	〃	0.16	0.63	0.79	0.19	〃	0.23	0.28	0.14
1,000	〃	0.19	0.74	0.93	0.21	〃	0.24	0.31	0.15
1,100	〃	0.23	0.88	1.10	0.23	0.07	0.26	0.33	0.16
1,200	〃	0.26	1.03	1.29	0.25	〃	0.27	0.34	0.17
1,350	〃	0.33	1.28	1.61	0.28	〃	0.30	0.37	0.18
1,500	〃	0.37	1.51	1.89	0.32	〃	0.31	0.40	0.20
1,600	4.0	0.32	1.29	1.62	0.27	〃	〃	0.39	0.18
〃	5.0	0.38	1.50	1.88	0.31	〃	〃	0.41	0.20
1,650	4.0	0.36	1.39	1.76	0.28	0.08	0.32	0.40	0.19
〃	5.0	0.39	1.61	2.03	0.32	〃	〃	0.42	0.20
1,800	4.0	0.41	1.63	〃	0.31	〃	0.33	〃	〃
〃	5.0	0.47	1.88	2.34	0.37	〃	0.35	〃	0.22
2,000	4.0	0.50	2.03	2.53	〃	0.10	0.36	0.46	〃
〃	5.0	0.60	2.37	2.97	0.45	〃	0.38	〃	0.25

(注) 1.・2. [略]

[新設]

5. 単価表

(1) ダクタイル鋳鉄管布設1本当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ダクタイル鋳鉄管	○種○mm	本	1	
鋳鉄管接合部品		組	1	K形の場合
諸 雑 費		式	1	表4.1(注)2
世 話 役		人		表4.1
特 殊 作 業 員		〃		〃

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	低騒音型、排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型 ○○t 吊	日		表3. 1、表4. 1
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	超低騒音型、排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付)	超低騒音型、排出ガス対策型 (2011年規制) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>48</u> 機械賃料数量→1.12

⑥ [略]

⑦ コルゲートパイプ機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>50</u> 機械賃料数量 →1.74

⑧~⑩ [略]

⑪ 制水弁据付工 (機械)

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 → <u>52</u> 機械賃料数量→1.58

⑫・⑬ [略]

普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 ○○t 吊	日		表3. 1、表4. 1
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	〃		〃
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>51</u> 機械賃料数量→1.12

⑥ [略]

⑦ コルゲートパイプ機械布設

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>52</u> 機械賃料数量 →1.74

⑧~⑩ [略]

⑪ 制水弁据付工 (機械)

1. ~3. [略]

4. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>56</u> 機械賃料数量→1.58

⑫・⑬ [略]

## 8. 道路工

①・② [略]

[削る。]

## 8. 道路工

①・② [略]

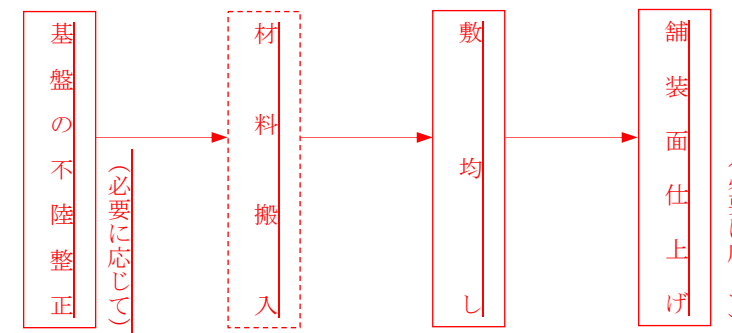
### ③ 砂利舗装工

#### 1. 適用範囲

本歩掛は、耕作道路等における砕石等の敷均し作業に適用する。

#### 2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。  
2. 路床の掘削作業は含まない。

#### 3. 歩掛の適用区分

歩掛の適用区分は、次表を標準とする。

表3.1 適用歩掛区分

適用範囲	敷均し区分	舗装面仕上げ区分
敷均し幅 2.5m以上	バックホウ敷均し	振動ローラ コンバインド型
敷均し幅 2.0m以上2.5m未満	小型バックホウ敷均し	振動ローラ ハンドガイド式
敷均し幅 2.0m未満	人力敷均し	

#### 4. 作業歩掛

##### 4-1 機械敷均し

敷砂利仕上がり厚さは、5cm以上20cm以下に適用する。

##### 4-1-1 機種を選定

機種は、次表を標準とする。

表4.1 適用機種

機種	規格
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> )
小型バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.13m <sup>3</sup> (平積0.10m <sup>3</sup> )

##### 4-1-2 作業歩掛

敷均しにおける作業歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 作業歩掛

(100m<sup>2</sup>当り)

機種	作業内容	世話役 (人)	普通作業員 (人)	敷均し機械 運転時間 (hr)	敷均し機械 運転日数 (日)

バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.69	1.9	-
		舗装面仕上げ有り	0.35			
	不陸整形 +敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.99	3.1	-
		舗装面仕上げ有り	0.35			
小型バックホウ	敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.69	-	0.4
		舗装面仕上げ有り	0.35			
	不陸整形 +敷均し	舗装面仕上げ無し	0.22	0.99	-	0.9
		舗装面仕上げ有り	0.35			

#### 4-2 人力敷均し

人力敷均しの作業歩掛は、次表を標準とする。

ただし、敷砂利仕上がり厚さが20cm以下に適用する。

表4.3 人力敷均し歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

作業内容	普通作業員(人)
敷均し	1.0
不陸整形 + 敷均し	1.8

(注) 現地条件により仮置き場からの小運搬作業が必要な場合は別途計上する。

#### 4-3 舗装面仕上げ

##### 4-3-1 作業歩掛

舗装面仕上げの作業歩掛は、次表を標準とする。

表4.4 施工歩掛 (100m<sup>2</sup>当り)

機種	規格	舗装面仕上げ 機械運転日数 (日)
振動ローラ 排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型	3~4t	0.2
振動ローラ ハンドガイド式	0.5~0.6t	0.3

(注) 1. 舗装面仕上げは、横断勾配等を指定する場合、ほ場への路面排水等の流出防止、または飛散防止の必要がある場合、第三者の通行が見込まれる場合等の簡易な締固め作業であり、締固め密度を必要とする場合は、別途計上する。

(注) 2. 振動ローラコンバインド型3~4tは、賃料とする。

#### 5. 敷砂利の使用量

敷砂利の使用量は、次式により算定する。

100m<sup>2</sup>当り敷砂利の使用量 (m<sup>3</sup>)

=100×敷砂利仕上がり厚さ(m)×(1+K)……(式5.1)

K:材料割増率

表5.1 材料割増率(K)

歩掛区分	材料割増率	
	舗装面仕上げ無し	舗装面仕上げ有り
機械敷均し	0.15	0.16
人力敷均し	0.06	0.18

#### 6. 単価表

##### (1) 砂利舗装工(機械) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表4.2
普通作業員		人		〃
舗設材		m <sup>3</sup>		式5.1
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値)	h		表4.2

	クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> )			
小型バックホウ運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積0.13m <sup>3</sup> (平積0.10m <sup>3</sup> )	且		//
振動ローラ運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) コンバインド型 3~4t	//		表4.4 必要に応じて計上する
//	ハンドガイド式 0.5~0.6t	//		//
計				

(2) 砂利舗装工(人力) 100m<sup>2</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表4.3
舗設材		m <sup>3</sup>		式5.1
振動ローラ運転	ハンドガイド式 0.5~0.6t	且		表4.4 必要に応じて計上する
計				

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.20m <sup>3</sup> )	機-1	
小型バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.13m <sup>3</sup> (平積0.10m <sup>3</sup> )	機-30	運転時間=5.7hr/日
振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準値) コンバインド型 3.0~4.0t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →13 機械賃料数量 →1.26
//	ハンドガイド式 0.5~0.6t	機-23	燃料消費量 →3 機械損料数量 →1.74

③ グースアスファルト舗装工

1. ~5. [略]

6. 単価表

(1)~(4) [略]

(5) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
グースアスファルト フィニッシャ	2.5~4.5m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→60 機械損料数量→1.56

④ PC橋架設工

1. ~3. [略]

④ グースアスファルト舗装工

1. ~5. [略]

6. 単価表

(1)~(4) [略]

(5) 機械運転単価表

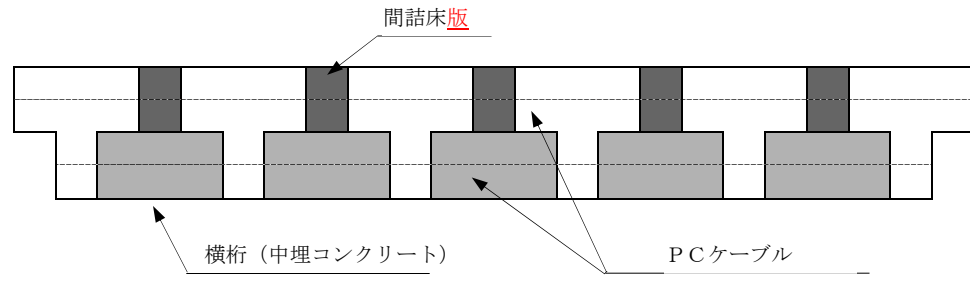
機械名	規格	適用単価表	指定事項
グースアスファルト フィニッシャ	2.5~4.5m	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.56

⑤ PC橋架設工

1. ~3. [略]

4. 横組工

横組工とは、横桁(中埋コンクリート)、間詰床版及び横締の一連作業で、その内訳は次のとおりである。



参考図

4-1 鉄筋工

4-1-1 鉄筋加工・組立

間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛 (1t当り)

編 成 人 員 ( 人 )			諸 雑 費 率 (%)
世 話 役	鉄 筋 工	普 通 作 業 員	
0.8	3.8	1.7	<u>4</u>

(注) 1.・2. [略]

4-1-2 鉄筋使用量

鉄筋の使用量は次式とし、スクラップ控除はしない。

使用量(t) = 設計量(t) × (1 + K) ……(式 4. 1)

K:ロス率

表 4.2 ロス率(K)

<u>ロス率</u>	+0.05
------------	-------

4-2 コンクリート工

横組の型枠及びコンクリート作業に適用し、PC合成桁橋の床版は含まない。

4-2-1・4-2-2 [略]

4-2-3 コンクリート工歩掛

型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 コンクリート工歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

桁 形 式	編 成 人 員 ( 人 )				諸 雑 費 率 (%)
	橋りょう世話役	特殊作業員	型わく工	普通作業員	
プレテンション T桁	2.9	4.0	9.3	9.1(7.5)	<u>8</u> (7)
プレテンション 床版桁	1.6	1.7	2.5	3.9(2.4)	10 (5)

(注) 1. ~7. [略]

4-2-4 コンクリート使用量

コンクリート使用量は、次式による。

使用量(m<sup>3</sup>) = 設計量(m<sup>3</sup>) × (1 + K) ……(式 4. 2)

K:ロス率

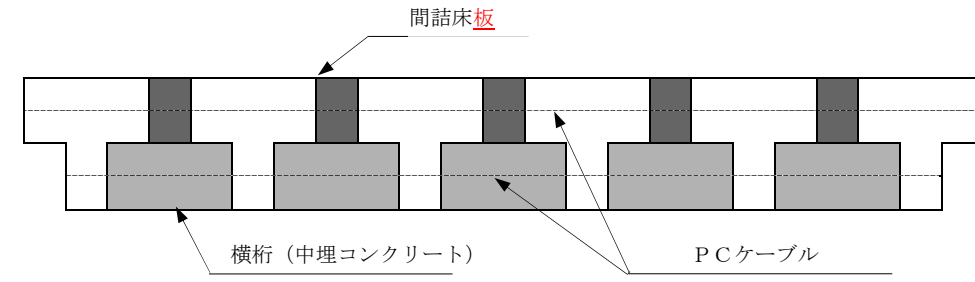
表 4.5 ロス率(K)

<u>ロス率</u>	+0.05
------------	-------

4-3 PC工

4. 横組工

横組工とは、横桁中埋コンクリート、間詰床版及び横締の一連作業で、その内訳は次のとおりである。



参考図

4-1 鉄筋工

4-1-1 鉄筋加工・組立

(1) 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立歩掛 (1t当り)

編 成 人 員 ( 人 )			諸 雑 費 率 (%)
世 話 役	鉄 筋 工	普 通 作 業 員	
0.8	3.8	1.7	<u>5</u>

(注) 1.・2. [略]

4-1-2 鉄筋使用量

鉄筋の使用量は次式とし、スクラップ控除はしない。

使用量(t) = 設計量(t) × (1 + K) ……(式 4. 1)

K:ロス率

表 4.2 ロス率(K)

<u>補正係数</u>	+0.05
-------------	-------

4-2 コンクリート工

横組の型枠及びコンクリート作業に適用し、PC合成桁橋の床版は含まない。

4-2-1・4-2-2 [略]

4-2-3 コンクリート工歩掛

型枠の製作、設置・撤去、コンクリートポンプ車による打設及び養生歩掛は、次表を標準とする。

表 4.4 コンクリート工歩掛 (10m<sup>3</sup>当り)

桁 形 式	編 成 人 員 ( 人 )				諸 雑 費 率 (%)
	橋りょう世話役	特殊作業員	型わく工	普通作業員	
プレテンション T桁	2.9	4.0	9.3	9.1(7.5)	<u>9</u> (7)
プレテンション 床版桁	1.6	1.7	2.5	3.9(2.4)	10 (5)

(注) 1. ~7. [略]

4-2-4 コンクリート使用量

コンクリート使用量は、次式による。

使用量(m<sup>3</sup>) = 設計量(m<sup>3</sup>) × (1 + K) ……(式 4. 2)

K:ロス率

表 4.5 ロス率(K)

<u>補正係数</u>	+0.05
-------------	-------

4-3 PC工



4-3-1 [略]

4-3-2 PCケーブル使用量

PCケーブルの使用量は、次表による。

使用量 (m) = 設計量 (m) × (1 + K) ……(式 4. 3)

K:ロス率

表 4. 7 ロス率(K)

ロス率	+0.05
-----	-------

(注) 上表のロス率はPCケーブルの切断ロス、つかみ代等の補正でありスクラップ控除はしない。

4-4 緊張工

4-4-1 緊張工歩掛

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 8 緊張工歩掛 (10 ケーブル当り)

種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
シングルストランドシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.4	1.2	0.6	3
	450kN(50t)型(1S19.3)				
	570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) 1. ~ 2. [略]

4-4-2・4-4-3 [略]

4-5・4-6 [略]

5.・6. [略]

⑤ [略]

4-3-1 [略]

4-3-2 PCケーブル使用量

PCケーブルの使用量は、次表による。

使用量 (m) = 設計量 (m) × (1 + K) ……(式 4. 3)

K:ロス率

表 4. 7 ロス率(K)

補正係数	+0.05
------	-------

(注) 上表の補正係数はPCケーブルの切断ロス、つかみ代等の補正でありスクラップ控除はしない。

4-4 緊張工

4-4-1 緊張工歩掛

定着装置の設置、緊張、モルタルあと埋め作業の歩掛は、次表を標準とする。

表 4. 8 緊張工歩掛 (10 ケーブル当り)

種類	規格	編成人員 (人)			諸雑費率 (%)
		橋りょう世話役	橋りょう特殊工	普通作業員	
シングルストランドシステム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.4	1.2	0.6	4
	450kN(50t)型(1S19.3)				
	570kN(60t)型(1S21.8)				

(注) 1. ~ 2. [略]

4-4-2・4-4-3 [略]

4-5・4-6 [略]

5.・6. [略]

⑥ [略]

## 9. ほ場整備工

### ① ほ場整備整地工（標準区画 0.3ha 以上）

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 20t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>130</u> 機械賃料数量 →2.18
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>59</u> 機械賃料数量 →2.46

### ② ほ場整備整地工（標準区画 0.3ha 未満）

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第3次基準値) 湿地 7t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>54</u> 機械賃料数量 →2.38
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>58</u> 機械賃料数量 →2.20

③ [略]

### ④ 暗渠排水工

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1)～(8) [略]

#### (9) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
トレンチャ	自走式・普通型 クローラ 35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.18
バックホウ	排出ガス対策型	〃	運転労務数量→1.00

## 9. ほ場整備工

### ① ほ場整備整地工（標準区画 0.3ha 以上）

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第2次基準値) 湿地 20t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>137</u> 機械賃料数量 →2.18
バックホウ	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>63</u> 機械賃料数量 →2.46

### ② ほ場整備整地工（標準区画 0.3ha 未満）

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ブルドーザ	排出ガス対策型 (第3次基準値) 湿地 7t 級	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>51</u> 機械賃料数量 →2.38
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>63</u> 機械賃料数量 →2.20

③ [略]

### ④ 暗渠排水工

1. ～ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1)～(8) [略]

#### (9) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
トレンチャ	自走式・普通型 クローラ 35kW	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→33 機械損料数量→1.18
バックホウ	排出ガス対策型	〃	運転労務数量→1.00

	(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )		燃料消費量→ <u>34</u> 機械損料数量→1.50
不整地運搬車	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 2.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>14</u> 機械賃料数量→1.55
不整地運搬車	クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 3.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>20</u> 機械損料数量→1.55

⑤ 畦畔整形工

1. 適用範囲

本歩掛は、水田のほ場整備工事の畦畔築立後における畦畔整形（盛土の法面整形及び水平面整形）作業を行う場合に適用する。

2. ~ 4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 (法面バケット付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>58</u> 機械賃料数量 →2.32

	(第2次基準値) クローラ型 山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.20m <sup>3</sup> )		燃料消費量→ <u>36</u> 機械損料数量→1.50
不整地運搬車	排出ガス対策型 (第2次基準値) クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 2.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>16</u> 機械賃料数量→1.55
不整地運搬車	クローラ型 油圧ダンプ式 積載質量 3.0t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>23</u> 機械損料数量→1.55

⑤ 畦畔整形工

1. 適用範囲

本歩掛は、水田のほ場整備工事の畦畔築立後における畦畔整形（法面整形及び水平面整形）作業を行う場合に適用する。

2. ~ 4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型 (第3次基準値) クローラ型 (法面バケット付) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>63</u> 機械賃料数量 →2.32

## 10. 農地造成工

①～④ [略]

⑤ リップドーザ（耕起・深耕）

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t級、爪数3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>127</u> 機械損料数量→1.67

⑥・⑦ [略]

⑧ 石礫除去工（人力）

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型油圧ダンプ式積載質量2.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>18</u> 機械賃料数量→1.75

⑨～⑪ [略]

## 10. 農地造成工

①～④ [略]

⑤ リップドーザ（耕起・深耕）

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リップドーザ	排出ガス対策型(第1次基準値) 18t級、爪数3	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>134</u> 機械損料数量→1.67

⑥・⑦ [略]

⑧ 石礫除去工（人力）

1. ～4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型油圧ダンプ式積載質量2.0t	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>21</u> 機械賃料数量→1.75

⑨～⑪ [略]

## 12. 地すべり防止工

### ① 集水井工（ライナープレート土留工法）

1. ～6. [略]

#### 7. 単価表

(1)～(5) [略]

#### (6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧ラムシェルレスコピック式 バケット容量（平積）0.4m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>45</u> 機械賃料数量→1.41
ク ロー ラ ク レ ー ン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	機-28	(A工法) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→13 機械賃料数量→1.47 (B工法) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→17 機械賃料数量→1.47 [井戸蓋、昇降用設備設置] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→15 機械賃料数量→1.47
小 型 バ ッ ク ホ ウ	電動式クローラ型 山積 0.022m <sup>3</sup> （平積 0.015m <sup>3</sup> ）	機-25	(B工法) 機械損料数量→1.47 (C工法) 機械損料数量→1.40
簡 易 や ぐ ら	鋼製φ60.5mm×4.0m 2.0t 吊、 モータウインチ付	機-25	機械損料数量→1.43
ト ラ ッ ク	クレーン装置付 2t 級、2.9t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>21</u> 機械損料数量→1.20

[削る。]

## 12. 地すべり防止工

### ① 集水井工（ライナープレート土留工法）

1. ～6. [略]

#### 7. 単価表

(1)～(5) [略]

#### (6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧ラムシェルレスコピック式 バケット容量（平積）0.4m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>48</u> 機械賃料数量→1.41
ク ロー ラ ク レ ー ン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	機-28	(A工法) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→13 機械賃料数量→1.47 (B工法) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→17 機械賃料数量→1.47 [井戸蓋、昇降用設備設置] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→15 機械賃料数量→1.47
小 型 バ ッ ク ホ ウ	電動式クローラ型 山積 0.022m <sup>3</sup> （平積 0.015m <sup>3</sup> ）	機-25	(B工法) 機械損料数量→1.47 (C工法) 機械損料数量→1.40
簡 易 や ぐ ら	鋼製φ60.5mm×4.0m 2.0t 吊、 モータウインチ付	機-25	機械損料数量→1.43
ト ラ ッ ク	クレーン装置付 2t 級、2.9t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>23</u> 機械損料数量→1.20

### ② 集水井工（プレキャスト土留工法）

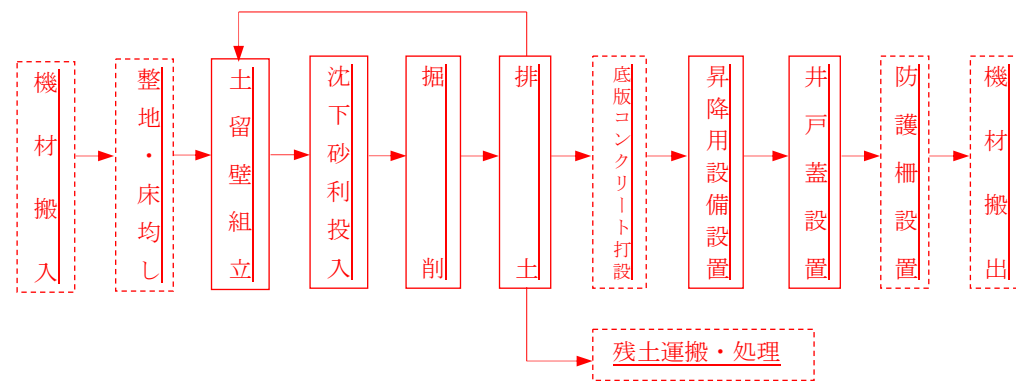
#### 1. 適用範囲

本歩掛は、人力併用機械掘削、プレキャスト土留工法による公称径 3.5m で深さ 20m 以下の集水井工の自沈方式に適用する。

ただし、セグメント方式の場合には適用しない。

#### 2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3. 機種の選定

3-1 土留掘削作業に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種の選定

用途	機械名	規格	単位	数量
掘削及び排土	クラムシェル	油圧クラムシェルテレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	台	1
土留材・機材の吊り込み	クローラクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	台	1

(注) 1. 上表の機械は、掘削土を集水井の井戸脇に仮置する場合である。  
2. クラムシェル及びクローラクレーンは、賃料とする。

### 3-2 土留材

土留材はプレキャスト土留壁とし、使用規格は、土圧計算等によって決定する。

### 4. 編成人員

土留掘削作業編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 土留掘削作業編成人員 (人/日)

職種	世話役	トンネル特殊工	普通作業員
人員	1	2	1

### 5. 施工歩掛

#### 5-1 集水井1基当り施工日数

土留掘削作業1基当り施工日数は次式とする。なお、土留材の組立、グラウトの注入、沈下材の設置を含む。

$$D = \frac{l_1}{d_1} + \frac{l_2}{d_2}$$

D : 集水井1基当り施工日数 (日/基)  
d<sub>1</sub> : 粘性土、礫質土の日当り施工量 (m/日)  
d<sub>2</sub> : 軟岩の日当り施工量 (m/日)  
l<sub>1</sub> : 粘性土、礫質土の掘削延長 (m)  
l<sub>2</sub> : 軟岩の掘削延長 (m)

#### 5-1-1 掘削1日当り施工量 (d<sub>n</sub>)

掘削1日当り施工量は、次表を標準とする。

表 5. 1 掘削1日当り施工量 (d<sub>n</sub>) (m/日)

土質区分	掘削深さ (m)	
	10 未満	10 以上~20 以下
粘性土、礫質土 (d <sub>1</sub> )	1.37	1.31

軟岩 (d2)	1.21	1.10
---------	------	------

(注) 1. 砂質土、中硬岩、硬岩の場合は、別途考慮する。  
2. 日掘削量の算出における掘削深は、全土質の総掘削延長とする。

#### 5-1-2 諸雑費

諸雑費は、軸流ファン、工事用水中モーターポンプ、ピックハンマ、コンクリートブレイカ、空気圧縮機（排出ガス対策型(第1次基準値)）の機械損料及び運転経費、工事用昇降梯子、安全ネット、縦方向接合鉄筋、鉄筋挿入孔注入材（グラウト材）、沈下材及び電力に関する経費等の費用であり、労務費と機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。なお、工事用水中モーターポンプの有無に関係なく同率とする。

諸 雑 費 率	15
---------	----

#### 5-2 底版コンクリート工

底版コンクリートの打設は、「施工パッケージ型積算基準 3. コンクリート工②コンクリート工」による。ただし、現場条件等により、これにより難しい場合は別途考慮する。

#### 5-3 昇降用設備設置工

##### 5-3-1 使用機械

昇降用設備設置工に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	台	1

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

##### 5-3-2 編成人員

昇降用設備設置工の編成人員は、次表を標準とする。

職 種	世 話 役	特殊作業員	普通作業員
人 員	1	2	1

##### 5-3-3 日当り施工量

昇降用設備設置工の日当り施工量は、次表を標準とする。

施 工 区 分	単 位	数 量
昇 降 用 設 備 設 置	m	22.0

(注) 螺旋型梯子及び直梯子に適用する。

##### 5-3-4 諸雑費

諸雑費は、軸流ファンの機械損料・運転経費及び電力に関する経費であり、労務費と機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた額を計上する。

諸 雑 費 率	6
---------	---

#### 5-4 井戸蓋工

##### 5-4-1 使用機械

井戸蓋工に使用する機種・規格は、次表を標準とする。

機 械 名	規 格	単 位	数 量
クローラクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	台	1

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

5-4-2 編成人員

井戸蓋工の編成人員は、次表を標準とする。

表 5. 8 井戸蓋工編成人員 (人/日)

職 種	世 話 役	特殊作業員	普通作業員
人 員	1	2	1

5-4-3 日当り施工量

井戸蓋工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 5. 9 井戸蓋工日当り施工量 (基/日)

施 工 区 分	単 位	数 量
井 戸 蓋 設 置	基	4.8

(注) コンクリート製蓋及び鉄網製蓋に適用する。

6. 単価表

(1) 集水井（プレキャスト土留壁）1基当り内訳表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 留 掘 削		基	1	単価表(2)
底版コンクリート工		m <sup>3</sup>		
昇降用設備設置工		m		〃 (3)
井 戸 蓋 工		基	1	〃 (4)
土 留 材	プレキャスト土留材	t又はm		
井 戸 蓋 材		式	1	
昇 降 用 設 備 材		〃	1	
計				

(2) 土留掘削1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×D	表 4. 1
トンネル特殊工		〃	2×D	
普通作業員		〃	1×D	
クラムシェル運	油圧クラムシェルレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	日	D	
クローラクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	〃	D	
諸 雑 費		式	1	表 5. 2
計				

(注) D：集水井1基当り施工日数(日/基)

(3) 昇降用設備設置工10m当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	1×10/D	表 5. 4
特 殊 作 業 員		〃	2×10/D	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	
クローラクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	日	1×10/D	表 5. 3
諸 雑 費		式	1	表 5. 6
計				

(注) 1. D：日当り施工量(m/日)

2. 昇降用設備材料費は、別途計上する。

(4) 井戸蓋工1基当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----



② 集排水ボーリング工（ロータリー式）

1. ～6. [略]

7. 単価表

(1)～(6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	機-14	
グラウトポンプ	30～700/分、4.0kW	機-14	
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	機-16	燃料消費量→36 機械賃料数量→1.18

③ 集排水ボーリング孔洗浄工 [略]

④ かご工

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.50m <sup>3</sup> (平積0.40m <sup>3</sup> )	機-1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式 2t 積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→5.9

世 話 役		人	1×1/D	
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	表 5. 8
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	
クローラクレーン運転	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	且	1×1/D	表 5. 7
計				

(注) D：日当り施工量(基/日)

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧クラムシェルレスコピック式 バケット容量(平積) 0.4m <sup>3</sup>	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→48 機械賃料数量→1.36
クローラクレーン	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	機-28	[土留掘削] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→11 機械賃料数量→1.41 [昇降用設備設置] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→12 機械賃料数量→1.41 [井戸蓋] 運転労務数量→1.00 燃料消費量→6.7 機械賃料数量→1.41

③ 集排水ボーリング工（ロータリー式）

1. ～6. [略]

7. 単価表

(1)～(6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ボーリングマシン	油圧 5.5kW 級	機-14	
グラウトポンプ	30～700/分、4.0kW	機-14	
発 動 発 電 機	排出ガス対策型(第1次基準値) ディーゼルエンジン駆動 45kVA	機-16	燃料消費量→43 機械賃料数量→1.18

④ 集排水ボーリング孔洗浄工 [略]

⑤ かご工

1. ～5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型山積0.50m <sup>3</sup> (平積0.40m <sup>3</sup> )	機-1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式 2t 積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→7.1

⑤ 山腹水路工

1. ～4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 山腹集水路・排水路工  
5-1-1 山腹U型側溝（機械据付）歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 2 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.5
---------	-----

5-1-2 山腹U型側溝（人力据付）歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.5
---------	-----

5-1-3 山腹コルゲートフリューム据付歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 6 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.4
---------	-----

5-2・5-3 [略]

5-4 集水樹工  
5-4-1 [略]

5-4-2 プレキャスト集水樹据付歩掛

プレキャスト集水樹据付の歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 16 プレキャスト集水樹据付歩掛 (1基当り)

集水樹製品質量			150を超え 500kg以下	500を超え 1,000kg以下	1,000を超え 1,500kg以下	1,500を超え 1,700kg以下	摘 要
名 称	規 格	単 位					
世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	日	0.1				必要に応じて計 上する(注)1
諸 雑 費 率		%	0.6				

(注) 1. ～5. [略]

⑥ 山腹水路工

1. ～4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 山腹集水路・排水路工  
5-1-1 山腹U型側溝（機械据付）歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 2 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.4
---------	-----

5-1-2 山腹U型側溝（人力据付）歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.4
---------	-----

5-1-3 山腹コルゲートフリューム据付歩掛  
(1) [略]

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウの機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 6 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.3
---------	-----

5-2・5-3 [略]

5-4 集水樹工  
5-4-1 [略]

5-4-2 プレキャスト集水樹据付歩掛

プレキャスト集水樹据付の歩掛は、次表を標準とする。

表 5. 16 プレキャスト集水樹据付歩掛 (1基当り)

集水樹製品質量			150を超え 500kg以下	500を超え 1,000kg以下	1,000を超え 1,500kg以下	1,500を超え 1,700kg以下	摘 要
名 称	規 格	単 位					
世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特殊作業員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普通作業員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バックホウ (クレーン機能付) 運 転	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	日	0.1				必要に応じて計 上する(注)1
諸 雑 費 率		%	0.5				

(注) 1. ～5. [略]

6.・7. [略]

8. 単価表

(1)～(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付) (集水榦工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>37</u> 機械損料数量→1.56
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>8</u> 機械賃料数量→1.66

6.・7. [略]

8. 単価表

(1)～(7) [略]

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クレーン機能付) (集水榦工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-1	
バックホウ(クレーン機能付) (山腹集水路・排水路工) (山腹明暗渠工) (山腹暗渠工)	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> ) 吊能力1.7t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>39</u> 機械損料数量→1.56
不整地運搬車	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型・ダンプ式2.5t積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>10</u> 機械賃料数量→1.66

## 14. 復旧工

### ① 畦畔復旧工

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型（法面バケット付） 山積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>49</u> 機械賃料数量→1.54

### ② 耕地表土掘削・埋戻（機械）

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
表土掘削 バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> （平積 0.60m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>88</u> 機械賃料数量→1.39
表土埋戻 バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> （平積 0.60m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>78</u> 機械賃料数量→1.37

### ③ [略]

## 14. 復旧工

### ① 畦畔復旧工

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型（法面バケット付） 山積 0.45m <sup>3</sup> （平積 0.35m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>52</u> 機械賃料数量→1.54

### ② 耕地表土掘削・埋戻（機械）

1. ~ 4. [略]

#### 5. 単価表

(1) [略]

#### (2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
表土掘削 バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> （平積 0.60m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>93</u> 機械賃料数量→1.39
表土埋戻 バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型 山積 0.80m <sup>3</sup> （平積 0.60m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>83</u> 機械賃料数量→1.37

### ③ [略]

# 15. 仮設工

① [略]

② 大型土のう工

1. 適用範囲

本歩掛は、大型土のうの製作・設置、撤去に適用する。なお、大型土のうの袋材は容量1m<sup>3</sup>を標準とする。  
なお、砂防工での仮締切工の施工に伴う大型土のうの製作・設置・撤去には適用できない。

2. ~5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	機-28	<b>【製作・設置】</b> (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>104</u> 機械賃料数量→1.39 <b>【製作・設置】</b> (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>119</u> 機械賃料数量→1.44 <b>【製作】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>119</u> 機械賃料数量→1.44 <b>【設置】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>94</u> 機械賃料数量→1.36 <b>【撤去】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>78</u> 機械賃料数量→1.26

③ 水替工(小口径)

1. 適用範囲

本歩掛は、一般土木工事にて使用する小口径工事中ポンプによる水替工で、排水量が30m<sup>3</sup>/h未満かつ全揚程が10m以下の場合に適用するものとし、ダム本體工事などの大規模工事の排水には適用しない。

2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

(注) [略]

2-2 排水方法の選定

排水方法は、作業時排水又は常時排水とする。

# 15. 仮設工

① [略]

② 大型土のう工

1. 適用範囲

本歩掛は、大型土のうの製作・設置、撤去に適用する。なお、大型土のうの袋材は容量1m<sup>3</sup>を標準とする。

2. ~5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) クローラ型 2.9t 吊 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	機-28	<b>【製作・設置】</b> (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>98</u> 機械賃料数量→1.39 <b>【製作・設置】</b> (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>112</u> 機械賃料数量→1.44 <b>【製作】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>112</u> 機械賃料数量→1.44 <b>【設置】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>88</u> 機械賃料数量→1.36 <b>【撤去】</b> 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>74</u> 機械賃料数量→1.26

③ 水替工(小口径)

1. 適用範囲

本歩掛は、一般土木工事にて使用する小口径工事中ポンプによる水替工で、排水量が30m<sup>3</sup>/h未満かつ揚程が10m以下の場合に適用するものとし、ダム等の大規模工事には適用しない。

2. 施工概要

[新設]

施工フローは、次図を標準とする。

[略]

(注) [略]

[新設]

2-2-1 作業時排水とは、作業前（1～3時間）から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。  
 なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立・養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。

2-2-2 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。

[削る。]

### 3. 施工歩掛

#### 3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定（ポンプ運転）

機 械 名	規 格	単 位	数 量		摘 要
			排水量 (m <sup>3</sup> /h)		
			0以上 6未満	6以上 30未満	
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型（潜水ポンプ） 口径 50mm、全揚程 10m以下	台	1	2	
	普通型（潜水ポンプ） 口径 100mm、全揚程 10m以下	〃	2	1	
発 動 発 電 機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA	〃	1	2	発動発電機を使用 する場合
	ディーゼルエンジン駆動 定格容量 5kVA	〃	2	1	〃

- (注) 1. 工事用水中モータポンプの賃料は、「4-1-3 諸雑費」の規定により諸雑費に含む。  
 2. 発動発電機は、賃料とする。  
 3. 工期、揚程、現場の状況などから上表により難しい場合は、現場条件に適応した機種、規格のポンプを計上することができる。  
 4. 動力源を商用電源、発動発電機のいずれとするかは、設置期間の長短、受配電設備の要否等、設置予定個所の現場条件を総合的に勘案して定める。  
 5. 排水量が 30m<sup>3</sup>/h 未満であっても全揚程が 10m を超えて 15m 以下となる場合については、「④縮切排水工」を適用する。

### 3. 排水方法の選定

#### 3-1 排水方法

排水方法は、作業時排水又は常時排水とする。

3-1-1 作業時排水とは、作業前（1～3時間）から排水し始めて作業終了後には排水を中止する方法をいう。  
 なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。

3-1-2 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。

#### 3-2 ポンプの機種、使用台数及び発動発電機の選定

排水量に対するポンプの機種、規格、使用台数及び発動発電機を使用する場合の発動発電機の規格は、表 3. 1 を標準とする。

表 3. 1 ポンプの使用台数及び発動発電機の規格

排水量 (m <sup>3</sup> /h)	口径 (mm) × 台数 (台)	発動発電機容量 (kVA)
0以上～ 6未満	50 × 1	2
6〃～ 30〃	100 × 1	5

- (注) 1. 発動発電機は、賃料とする。  
 2. 工期、揚程、現場の状況などから上表により難しい場合は、現場条件に適応した機種、規格のポンプを計上することができる。  
 3. 動力源は、商用電源又は発動発電機とし、工期と配電設備に要する日数及び他工種の使用電力状況並びに地理的状況等を総合的に考慮して定める。  
 4. 排水量が 30m<sup>3</sup>/h 未満であっても揚程が 10m を超えて 15m 以下となる場合については、「④縮切排水工」を適用する。

### 4. 施工歩掛

[新設]

3-2 運転工歩掛

3-2-1 運転日数

排水期間中のポンプ運転日数は、工事の規模、現場状況等から積上げて算出するものとする。

3-2-2 労務歩掛

ポンプの排水現場1箇所当りの日当り運転歩掛は、次表とする。

表 3.2 ポンプ運転歩掛 (人/箇所・日)

排水方法 動力源 名称	作業時排水		常時排水	
	商用電源	発動発電機	商用電源	発動発電機
特殊作業員	0.10	0.14	0.13	0.17

- (注) 1. [略]  
 2. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。  
 3. 歩掛は、排水方法にかかわらず、排水現場1箇所当りポンプ台数が1台の運転労務歩掛を標準としたものである。現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。  
 4. [略]

3-2-3 諸雑費

諸雑費は、ポンプの配管材料の損料及び水中ポンプの賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3.3 諸雑费率 (%)

動力源	排水方法	
	作業時排水	常時排水
商用電源	23	17
発動発電機	10	8

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去到要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表 3.4 設置・撤去歩掛 (口径 50mm) (1箇所) [略]

表 3.5 設置・撤去歩掛 (口径 100mm) (1箇所)

名称	規格	単位	数量
世話役	—	人	0.5
普通作業員	—	人	1.0
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日	0.5

- (注) 1. バックホウは、賃料とする。  
 [削る。]  
 2. 歩掛及び運転日数は、1縮切現場当りポンプ設置・撤去台数が1台が標準であり、上表により難しい場合は、別途考慮する。  
 3. 使用機械・規格については上表を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途選定できるものとする。  
 4. 歩掛には、配管設置・撤去労務を含む。  
 5. 1工事中に数分割の縮切がある場合は、1縮切現場を1箇所とする。

4. 単価表

(1) 水替工 (小口径) 内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
ポンプ運転		日		(2) 単価表
ポンプ設置・撤去		箇所		(3) 単価表

(2) ポンプ運転1日当り単価表

4-1 運転工歩掛

4-1-1 運転日数

排水期間中のポンプ運転日数は、工事の規模、現場状況などから積上げて算出するものとする。

4-1-2 労務歩掛

ポンプの運転歩掛は、排水現場1箇所当り、次表を標準とする。

表 4.1 ポンプ運転歩掛 (人/箇所・日)

排水区分 電源 ポンプの種類	作業時排水		常時排水	
	商用電源	発動発電機	商用電源	発動発電機
工事用水中ポンプ (電動機)	0.10	0.14	0.13	0.17

- (注) 1. [略]  
 2. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。なお、運転工の職種は、特殊作業員とする。  
 3. 歩掛は、排水方法にかかわらず、排水現場1箇所当りポンプ台数が1台の運転労務を標準としたものである。上表により難しい場合は、別途積算する。  
 4. [略]

4-1-3 諸雑費

諸雑費は、ポンプの配管材料の損料及び水中ポンプの賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 4.2 諸雑费率 (%)

動力区分	排水区分	
	作業時排水	常時排水
商用電源	23	17
発動発電機	10	8

4-2 据付・撤去歩掛

ポンプの据付・撤去到要する1箇所の歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 据付・撤去歩掛 (口径 50mm) (1箇所当り) [略]

表 4.4 据付・撤去歩掛 (口径 100mm) (1箇所当り)

名称	規格	単位	数量
世話役	—	人	0.5
普通作業員	—	人	1.0
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日	0.5

- (注) 1. バックホウ (クレーン機能付) は、賃料とする。  
 2. バックホウ (クレーン機能付) は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。  
 3. 歩掛及び運転日数は、1縮切現場当りポンプ据付・撤去台数が1台が標準であり、上表により難しい場合は、別途積算する。  
 4. 機種については上表の使用機械を標準とするが、現場条件及び他の工種により持ち込まれる機種を使用することが有利な場合は、別途選定できるものとする。  
 5. 歩掛には、配管布設・撤去労務を含む。  
 6. 1工事中に数分割の縮切がある場合は、1縮切現場を1箇所とする。

5. 単価表

(1) 水替工 (小口径) 内訳表

名称	規格	単位	数量	摘要
ポンプ運転		日		(2) 単価表
ポンプ据付・撤去		箇所		(3) 単価表

(2) ポンプ運転1日当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 4. 1
工事中水中モータポンプ 運 転		日	1	表 3. 1 (発動発電機を使用する場合は計上しない)
発動発電機運転		日	1	表 3. 1 (商用電源を使用する場合は計上しない)
諸 雑 費		式	1	表 4. 2
計				

(3) ポンプ設置・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 3 又は表 4. 4
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日		表 4. 4
計				

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
工事中水中モータポンプ	普通型 (潜水ポンプ) 口径 50mm、全揚程 10m 以下 口径 100mm、全揚程 10m 以下	機-32	(常時排水) 口径×台数 電力消費量→ 50×1→ 11 100×1→ 53 機械賃料数量→ - (機械賃料は諸雑費に含む) (作業時排水) 口径×台数 電力消費量→ 50×1→ 3.8 100×1→ 18 機械賃料数量→ - (機械賃料は諸雑費に含む)
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 定格容量 2kVA ディーゼルエンジン駆動 定格容量 5kVA	機-16	(常時排水) 燃料消費量→2kVA→ 29 5kVA→ 17 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 燃料消費量→2kVA→ 9.6 5kVA→ 5.6 機械賃料数量→1.1
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	機-28	運転労務数量→ 0.68 燃料消費量→ 41 機械賃料数量→ 1.00

④ 締切排水工

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 4. 1
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
発動発電機運転		日	1	表 3. 1 (発動発電機使用の場合)
諸 雑 費		式	1	表 4. 2
計				

(3) ポンプ据付・撤去 1箇所当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 3 又は表 4. 4
普通作業員		〃		〃
バックホウ (クレーン機能付) 運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日		表 4. 4
計				

(4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
[新設]	[新設]	[新設]	[新設]
発動発電機	ガソリンエンジン駆動 2kVA ディーゼルエンジン駆動 5kVA	機-16	(常時排水) 燃料消費量→2kVA→ 28 5kVA→ 24 機械賃料数量→1.1 (作業時排水) 燃料消費量→2kVA→ 9 5kVA→ 7.9 機械賃料数量→1.1
バックホウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→ 0.68 燃料消費量→ 43 機械賃料数量→ 1.00

④ 締切排水工



1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 3-1 機種の選定  
機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種選定 (ポンプ運転)

機 械 名	規 格	単 位	数 量				摘 要
			排水量 (m <sup>3</sup> /h)				
			0 以上 40 未満	40 以上 120 未満	120 以上 450 未満	450 以上 1,300 未満	
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

(注) 1. [略]  
 2. 全揚程が15m以下の場合、工事用水中モータポンプの規格は全揚程10mを標準とする。  
 3. [略]  
 4. [略]  
 5. [略]  
 6. [略]

3-2 運転工歩掛  
3-2-1・3-2-2 [略]

3-2-3 諸雑費  
諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、分電盤の賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3. 3 諸雑費率 (%) [略]

3-3 [略]

4. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工事用水中モータポンプ	普通型 (潜水ポンプ)	機-32	機械賃料数量→ (常時排水) 1.1 (作業時排水) 1.2
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 定格容量 25kVA 定格容量 35kVA 定格容量 60kVA 定格容量 100kVA	機-16	(常時排水) 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ <u>67</u> 35kVA→ <u>98</u> 60kVA→ <u>168</u> 100kVA→ <u>264</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.1 (作業時排水) 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ <u>22</u> 35kVA→ <u>33</u> 60kVA→ <u>56</u> 100kVA→ <u>88</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.2
バ ッ ク ホ ウ ( ク ロ ー ラ 型 )	標準型・クレーン機能付・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	機-28	運 転 労 務 数 量 → 1.00 燃 料 消 費 量 → <u>65</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.16

1.・2. [略]

3. 施工歩掛

3-1 機種選定  
機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種選定 (ポンプ運転)

機 械 名	規 格	単 位	数 量				摘 要
			排水量 (m <sup>3</sup> /h)				
			0 以上 40 未満	40 以上 120 未満	120 以上 450 未満	450 以上 1,300 未満	
[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]	[略]

(注) 1. [略]  
 [新設]  
 2. [略]  
 3. [略]  
 4. [略]  
 5. [略]

3-2 運転工歩掛  
3-2-1・3-2-2 [略]

3-2-3 諸雑費  
諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、分電盤の賃料等の費用であり、労務費、機械賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 3. 3 諸雑費率 (%) [略]

3-3 [略]

4. 単価表

(1) ~ (3) [略]

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工事用水中モータポンプ	普通型 (潜水ポンプ)	機-32	機械賃料数量→ (常時排水) 1.1 (作業時排水) 1.2
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 定格容量 25kVA 定格容量 35kVA 定格容量 60kVA 定格容量 100kVA	機-16	(常時排水) 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ <u>79</u> 35kVA→ <u>115</u> 60kVA→ <u>199</u> 100kVA→ <u>312</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.1 (作業時排水) 燃 料 消 費 量 → 25kVA→ <u>26</u> 35kVA→ <u>38</u> 60kVA→ <u>66</u> 100kVA→ <u>104</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.2
バ ッ ク ホ ウ ( ク ロ ー ラ 型 )	標準型・クレーン機能付・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	機-28	運 転 労 務 数 量 → 1.00 燃 料 消 費 量 → <u>69</u> 機 械 賃 料 数 量 → 1.16

⑤ [略]

⑥ ウェルポイント

1.・2. [略]

3. ウェルポイント設置・撤去

3-1 施工歩掛

ウェルポイント設置・撤去歩掛は次表を標準とする。

表 3. 1 ウェルポイント設置・撤去歩掛 (100本当り)

名 称	規 格	単 位	施工規模			
			100本未満		100本以上	
			設置	撤去	設置	撤去
世 話 役		人	2.7	1.8	2.3	1.2
特 殊 作 業 員		〃	7.5	5.0	6.5	3.5
普 通 作 業 員		〃	7.5(11.5)	7.6	6.7(10.1)	5.4
ジ ョ ッ ト 装 置		日	2.5	—	2.1	—
諸 雑 費 率		%	32(33)	36	34(36)	37

(注) 1.～3. [略]

4. 諸雑費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は「ウェルポイント設置」の諸雑費率から1%減ずるものとし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

電力使用量(kWh) = 15kW × 0.827 × Td × Th × ウェルポイント施工本数・・・式 3.1

Td: ウェルポイント施工1本当りジェット装置運転日数(日/本)

Th: ジェット装置運転日当り運転時間(h/日)

表 3. 2 ・表 3. 3 [略]

5.・6. [略]

3-2 [略]

4. [略]

5. ウェルポイントポンプ運転管理

ウェルポイントポンプ運転管理歩掛は次表を標準とする。

表 5. 1 ウェルポイントポンプ運転管理歩掛 (1日当り)

名 称	単 位	ポンプ使用組数
		1～5組
世 話 役	人	0.2
特 殊 作 業 員	〃	0.7
諸 雑 費 率	%	35 × 使用組数

(注) 1.～4. [略]

5. 諸雑費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は、諸経費率5%×使用組数とし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

1日当り電力使用量(kWh) = 18.5kW × 0.827 × 24h × 使用組数・・・式 5.1

6. [略]

6.～8. [略]

⑦ 仮設材設置撤去工

⑤ [略]

⑥ ウェルポイント

1.・2. [略]

3. ウェルポイント設置・撤去

3-1 施工歩掛

ウェルポイント設置・撤去歩掛は次表を標準とする。

表 3. 1 ウェルポイント設置・撤去歩掛 (100本当り)

名 称	規 格	単 位	施工規模			
			100本未満		100本以上	
			設置	撤去	設置	撤去
世 話 役		人	2.7	1.8	2.3	1.2
特 殊 作 業 員		〃	7.5	5.0	6.5	3.5
普 通 作 業 員		〃	7.5(11.5)	7.6	6.7(10.1)	5.4
ジ ョ ッ ト 装 置		日	2.5	—	2.1	—
諸 雑 費 率		%	32(33)	36	34(36)	37

(注) 1.～3. [略]

4. 諸経費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は「ウェルポイント設置」の諸雑費率から1%減ずるものとし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

電力使用量(kWh) = 15kW × 0.9 × Td × Th × ウェルポイント施工本数・・・式 3.1

Td: ウェルポイント施工1本当りジェット装置運転日数(日/本)

Th: ジェット装置運転日当り運転時間(h/日)

表 3. 2 ・表 3. 3 [略]

5.・6. [略]

3-2 [略]

4. [略]

5. ウェルポイントポンプ運転管理

ウェルポイントポンプ運転管理歩掛は次表を標準とする。

表 5. 1 ウェルポイントポンプ運転管理歩掛 (1日当り)

名 称	単 位	ポンプ使用組数
		1～5組
世 話 役	人	0.2
特 殊 作 業 員	〃	0.7
諸 雑 費 率	%	38 × 使用組数

(注) 1.～4. [略]

5. 諸経費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は、諸経費率5%×使用組数とし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

1日当り電力使用量(kWh) = 18.5kW × 0.9 × 24h × 使用組数・・・式 5.1

6. [略]

6.～8. [略]

⑦ 仮設材設置撤去工

1.・2. [略]

3. 機種の選定

機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 標準機種及び使用区分

機 械 名	規 格	切梁・腹起し		タイロッド・腹起し		覆工板		覆工板受桁		横矢板	
		設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
ラフテレーン クレーン	排出ガス対策型 <u>(2011年規制)</u> 油圧伸縮 ジブ型 25 t	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 施工歩掛

各工種の施工歩掛は、次表とする。

表 4. 1 施工歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分					
			1		2		3	
			切梁・腹起し (10 t 当り)		タイロッド・腹起し (10 t 当り)		横矢板 (10m <sup>2</sup> 当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世 話 役		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	0.4	0.2
と び 工		〃	3.2 (1.9)	1.9 (1.2)	9.9	4.4	—	—
溶 接 工		〃	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
普 通 作 業 員		〃	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	1.2	0.6
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 <u>(2011年規制)</u> 油圧伸縮 ジブ型 25 t 吊	日	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
諸 雑 費 率		%	<u>5</u>	<u>7</u>	<u>10</u>	<u>12</u>	—	—
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			主部材及び 副部材の全質量		タイロッド及び 腹起し材の質量		壁面積	

(注) 1. [略]

2. タイロッド施工時の鋼矢板の穴開け加工費を含む。

3. タイロッド・腹起しにおいては、中埋土の充填排除は含まない。

4. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素ガス、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

表 4. 2 覆工板・覆工板受桁設置・撤去歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分		
			4	5	6
			設置面積 700m <sup>2</sup> 以下		設置面積 700m <sup>2</sup> を超える

1.・2. [略]

3. 機種の選定

機種、規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 標準機種及び使用区分

機 械 名	規 格	切梁・腹起し		タイロッド・腹起し		覆工板		覆工板受桁		横矢板	
		設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
ラフテレーン クレーン	排出ガス対策型 <u>(第2次基準値)</u> 油圧伸縮 ジブ型 25 t	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—

(注) 1.・2. [略]

4. 施工歩掛

4-1 施工歩掛

各工種の施工歩掛は、次表とする。

表 4. 1 施工歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分					
			1		2		3	
			切梁・腹起し (10 t 当り)		タイロッド・腹起し (10 t 当り)		横矢板 (10m <sup>2</sup> 当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世 話 役		人	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	0.4	0.2
と び 工		〃	3.2 (1.9)	1.9 (1.2)	9.9	4.4	—	—
溶 接 工		〃	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
普 通 作 業 員		〃	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	1.2	0.6
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 <u>(第2次基準値)</u> 油圧伸縮 ジブ型 25 t 吊	日	1.7 (1.0)	1.0 (0.5)	4.9	2.2	—	—
諸 雑 費 率		%	<u>4</u>	<u>6</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	—	—
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			主部材及び 副部材の全質量		タイロッド及び 腹起し材の質量		壁面積	

(注) 1. [略]

[新設]

2. タイロッド・腹起しにおいては、中埋土の充填排除は含まない。

3. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

表 4. 2 覆工板・覆工板受桁設置・撤去歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分		
			4	5	6
			設置面積 700m <sup>2</sup> 以下		設置面積 700m <sup>2</sup> を超える

			覆工板・受桁 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板受桁 (10 t 当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世話役		人	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
とび工		〃	4.6	2.7	2.5	1.4	1.6	1.0
溶接工		〃	2.1	1.3	—	—	1.6	1.0
普通作業員		〃	5.1	3.2	0.8	0.5	3.2	2.0
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮 ジブ型25t吊	日	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
諸雑费率		%	<u>4</u>	<u>6</u>	—	—	<u>6</u>	<u>8</u>
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			覆工板の面積		覆工板の面積		覆工板受桁の質量	

(注) 1. ~ 4. [略]

5. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素ガス、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

## 5. 単価表

### (1) 切梁・腹起し設置・撤去 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

### (2) タイロッド・腹起し設置 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		〃
タイロッド	φ 32~42 mm	t		必要量計上
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

### (3) タイロッド・腹起し撤去 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制)	日		〃

			覆工板・受桁 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板 (100m <sup>2</sup> 当り)		覆工板受桁 (10 t 当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
世話役		人	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
とび工		〃	4.6	2.7	2.5	1.4	1.6	1.0
溶接工		〃	2.1	1.3	—	—	1.6	1.0
普通作業員		〃	5.1	3.2	0.8	0.5	3.2	2.0
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮 ジブ型25t吊	日	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
諸雑费率		%	<u>3</u>	<u>4</u>	—	—	<u>5</u>	<u>6</u>
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			覆工板の面積		覆工板の面積		覆工板受桁の質量	

(注) 1. ~ 4. [略]

5. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。

## 5. 単価表

### (1) 切梁・腹起し設置・撤去 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

### (2) タイロッド・腹起し設置 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	日		〃
タイロッド	φ 32~42 mm	t		必要量計上
諸雑費		式	1	表 4. 1
計				

### (3) タイロッド・腹起し撤去 10 t 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 4. 1
とび工		〃		〃
溶接工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値)	日		〃

	油圧伸縮シブ型25 t吊			
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(4)・(5) [略]

(6) 覆工板・受桁設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>以下)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 覆工板設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
計				

(8) 覆工板受桁設置・撤去 10 t 当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (2011年規制) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

⑧ [略]

⑨ 鋼製足場

1. 適用範囲

本歩掛は、一般土木工事の構造物施工にかかる平均設置高 30m以下の足場工に適用する。

適用する足場の種類は、手摺先行型枠組足場、単管足場、単管傾斜足場とする。

ただし、高さ 2 m 未満の構造物及び鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル等で別に定めのある工種には適用できない。

2. [略]

3. 施工歩掛

足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

	油圧伸縮シブ型25 t吊			
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(4)・(5) [略]

(6) 覆工板・受桁設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>以下)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 覆工板設置・撤去 100m<sup>2</sup>当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
計				

(8) 覆工板受桁設置・撤去 10 t 当り単価表 (覆工板設置面積 700m<sup>2</sup>を超える)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 4. 2
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮シブ型25 t吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

⑧ [略]

⑨ 鋼製足場

1. 適用範囲

本歩掛は、一般土木工事の構造物施工にかかる平均設置高 30m以下の足場工に適用する。

ただし、高さ 2 m 未満の構造物及び鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル等で別に定めのある工種には適用できない。

2. [略]

3. 施工歩掛

足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 (100掛m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (kN /m <sup>2</sup> )		
			手摺先行型 枠組足場	単管足場	単管傾斜 足 場
世 話 役		人	1.6	1.9	1.5
と び 工		〃	7.0(8.5)	6.9(8.4)	4.5(6.1)
普 通 作 業 員		〃	1.3	1.8	2.7
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊 低騒音型	日	1.4	0.8	0.8
諸 雑 費 率		%	34(31)	29(27)	33(28)

- (注) 1. [略]  
 2. 諸雑費は、足場工仮設材(賃料)等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。なお、諸雑費には、供用中の足場材賃料を含み、現場内での段取り替えに伴うすべての費用を含むものとする。  
 ・ [略]  
 ・ [略]  
 ・ [略]  
 3. [略]

4. 単価表

(1) 手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 100掛m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 1
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊 低騒音型	日		表 3. 1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 3. 1
計				

5. [略]

⑩ 支保工

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

支保材の設置・撤去歩掛は、表 3. 1 を標準とする。ただし、パイプサポート支保の総設置数量 40 空m<sup>3</sup>以下の小規模工事では、表 3. 2 を標準とする。

表 3. 1 支保材設置・撤去歩掛 (100空m<sup>3</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (kN /m <sup>2</sup> )			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			f ≤ 40	40 < f ≤ 60	f ≤ 40	40 < f ≤ 80
コンクリート厚(t) (参考)		cm	t ≤ 120	120 < t ≤ 190	t ≤ 120	120 < t ≤ 250
世 話 役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型 わ く 工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
と び 工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普 通 作 業 員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	—	—	0.5	1.2
諸 雑 費		%	15	—	—	33

(注) 1. ～ 3. [略]

表 3. 2 支保材設置・撤去歩掛 (小規模) (10空m<sup>3</sup>当り) [略]

表 3. 1 足場材設置・撤去歩掛 (100掛m<sup>2</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (kN /m <sup>2</sup> )		
			手摺先行型 枠組足場	単管足場	単管傾斜 足 場
世 話 役		人	1.4	1.7	1.4
と び 工		〃	6.3(7.7)	6.3(7.7)	4.1(5.6)
普 通 作 業 員		〃	1.2	1.6	2.5
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	1.4	0.8	0.8
諸 雑 費 率		%	34(31)	32(29)	35(30)

- (注) 1. [略]  
 2. 諸雑費は、足場工仮設材等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を計上する。なお、諸雑費には、供用中の足場材損料を含むものとする。

- ・ [略]
- ・ [略]
- ・ [略]

3. [略]

4. 単価表

(1) 手摺先行型枠組・単管・単管傾斜足場 100掛m<sup>2</sup>当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人		表 3. 1
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

5. [略]

⑩ 支保工

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

支保材の設置・撤去歩掛は、表 3. 1 を標準とする。ただし、パイプサポート支保の総設置数量 40 空m<sup>3</sup>以下の小規模工事では、表 3. 2 を標準とする。

表 3. 1 支保材設置・撤去歩掛 (100空m<sup>3</sup>当り)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (kN /m <sup>2</sup> )			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			f ≤ 40	40 < f ≤ 60	f ≤ 40	40 < f ≤ 80
コンクリート厚(t) (参考)		cm	t ≤ 120	120 < t ≤ 190	t ≤ 120	120 < t ≤ 250
世 話 役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型 わ く 工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
と び 工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普 通 作 業 員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	—	—	0.5	1.2
諸 雑 費		%	15	—	—	33

(注) 1. ～ 3. [略]

表 3. 2 支保材設置・撤去歩掛 (小規模) (10空m<sup>3</sup>当り) [略]

4. 単価表

(1) パイプサポート支保・くさび結合支保 100 空m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1
型わく工		〃		〃
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン <u>運転</u>	排出ガス対策型(2014年規制) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		表 3. 1 機械賃料
諸雑費		式	1	表 3. 1
計				

(2) [略]

⑪ [略]

⑫ 敷鉄板設置撤去

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

敷鉄板の 1,000m<sup>2</sup>当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛 (1,000m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	設置	撤去
特殊作業員		人	1.5	1.4
普通作業員		〃	1.5	1.4
バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) <u>運転</u>	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日	1.5	1.4

(注) 1. 敷鉄板及びバックホウは、賃料とする。

2. [略]

[削る。]

4. 単価表

(1) 敷鉄板設置 1,000m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) <u>運転</u>	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8 m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日		表 3. 1 機械賃料
計				

(2) 敷鉄板撤去 1,000m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
バックホウ ( <u>クローラ型</u> ) <u>運転</u>	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8 m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日		表 3. 1 機械賃料
計				

(3) 機械運転単価表

4. 単価表

(1) パイプサポート支保・くさび結合支保 100 空m<sup>3</sup>当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		表 3. 1
型わく工		〃		〃
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
ラフテレーンクレーン <u>賃料</u>	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	日		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(2) [略]

⑪ [略]

⑫ 敷鉄板設置撤去

1. ・ 2. [略]

3. 施工歩掛

敷鉄板の 1,000m<sup>2</sup>当りの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表 3. 1 設置・撤去歩掛 (1,000m<sup>2</sup>当り)

名称	規格	単位	設置	撤去
特殊作業員		人	1.5	1.4
普通作業員		〃	1.5	1.4
バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>クローラ型</u> 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日	1.5	1.4

(注) 1. 敷鉄板及びバックホウ (クレーン機能付) は、賃料とする。

2. [略]

3. バックホウ(クレーン機能付)は、クレーン等安全規則、移動式クレーン構造規格に準拠した機械である。

4. 単価表

(1) 敷鉄板設置 1,000m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>クローラ型</u> 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日		〃
計				

(2) 敷鉄板撤去 1,000m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表 3. 1
普通作業員		〃		〃
バックホウ ( <u>クレーン機能付</u> )	排出ガス対策型(第3次基準値) <u>クローラ型</u> 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 2.9t 吊	日		〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )吊能力2.9t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →119 機械賃料数量 →1.14

⑬ [略]

⑭ 道路補修

1. ~4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 35 機械賃料数量 → 1.11

⑮ バイブロハンマエ(鋼矢板・H形鋼)

1. ~5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	摘要
ハ イ フ ロ ハ ン マ 杭 打 機	電動式・普通型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→69 機械損料1→ハイフロハンマ(単体) 電動式・普通型60kW、90kW 機械損料数量→1.30 機械損料2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55t吊 機械損料数量→1.30	打込み 引抜き
ハ イ フ ロ ハ ン マ 杭 打 機 (ハット形鋼矢板用)	電動式・ 可変モーメント型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→69 機械損料1→ハイフロハンマ(単体) 電動式・可変モーメント型 60kW、90kW 機械損料数量→1.30 機械損料2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55t吊 機械損料数量→1.30	打込み

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クレーン機能付)	排出ガス対策型(第3次基準値)クローラ型山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )2.9t吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →126 機械賃料数量 →1.14

⑬ [略]

⑭ 道路補修

1. ~4. [略]

5. 単価表

(1) [略]

(2) 機械運転単価表

機械名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ	排出ガス対策型(第2次基準値)クローラ型山積0.28m <sup>3</sup> (平積0.2m <sup>3</sup> )	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 38 機械賃料数量 → 1.11

⑮ バイブロハンマエ(鋼矢板・H形鋼)

1. ~5. [略]

6. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	摘要
ハ イ フ ロ ハ ン マ 杭 打 機	電動式・普通型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→69 機械損料1→ハイフロハンマ(単体) 電動式・普通型60kW、90kW 機械損料数量→1.30 機械損料2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55t吊 機械損料数量→1.30	打込み 引抜き
ハ イ フ ロ ハ ン マ 杭 打 機 (ハット形鋼矢板用)	電動式・ 可変モーメント型 60kW、90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→69 機械損料1→ハイフロハンマ(単体) 電動式・可変モーメント型 60kW、90kW 機械損料数量→1.30 機械損料2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式ウインチ・リフティング型) 50~55t吊 機械損料数量→1.30	打込み



ハイブローハンマ杭打機	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>460</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.30 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式クインチ・ラシジブ型) 50~55 t 吊	打込み
			機械損料数量→1.30 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>472</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.20 機械損料 2→ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊 機械損料数量→1.20	引抜き
ハイブローハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>460</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.30 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式クインチ・ラシジブ型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.30	打込み
杭打ち用ウォータージェット	エンジン式 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量→120 機械損料数量→1.30	打込み

⑩ 鋼矢板打込み（アースオーガ併用圧入工）

1. ~ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 [略]

5-2 諸雑費

諸雑費は、掘削土処理（穴埋め作業等）作業費、矢板等設置現場内小運搬費、オーガスクリュ及び、オーガヘッド損料、電力に関する経費、足場材（敷鉄板等）、鋼矢板圧入金具取付に関する経費等の費用であり、労務費、杭打機損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 諸雑费率

機種	諸雑费率 (%)
アースオーガ（油圧式）併用圧入杭打機 掘削トルク 34kN・m	34
アースオーガ併用圧入杭打機 オーガ出力 90kW	<u>37</u>

6. [略]

ハイブローハンマ杭打機	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>523</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.30 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式クインチ・ラシジブ型) 50~55 t 吊	打込み
			機械損料数量→1.30 運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>570</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.20 機械損料 2→ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊 機械損料数量→1.20	引抜き
ハイブローハンマ杭打機 (ハット形鋼矢板用)	油圧式・ 可変超高周波型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ <u>523</u> 機械損料 1→ハイブローハンマ 油圧式・可変超高周波型 235kW 機械損料数量→1.30 機械損料 2→クローラクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) (油圧駆動式クインチ・ラシジブ型) 50~55 t 吊 機械損料数量→1.30	打込み
杭打ち用ウォータージェット	エンジン式 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量→120 機械損料数量→1.30	打込み

⑩ 鋼矢板打込み（アースオーガ併用圧入工）

1. ~ 4. [略]

5. 施工歩掛

5-1 [略]

5-2 諸雑費

諸雑費は、掘削土処理（穴埋め作業等）作業費、矢板等設置現場内小運搬費、オーガスクリュ及び、オーガヘッド損料、電力に関する経費、足場材（敷鉄板等）、鋼矢板圧入金具取付に関する経費等の費用であり、労務費、杭打機損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。

表 5. 4 諸雑费率

機種	諸雑费率 (%)
アースオーガ（油圧式）併用圧入杭打機 掘削トルク 34kN・m	34
アースオーガ併用圧入杭打機 オーガ出力 90kW	<u>39</u>

6. [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 1000kN 引抜力 1100kN	機-24	燃料消費量 →170 機械損料数量 →1.45
〃	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 981~1471kN 引抜力 1079~1569kN	機-24	燃料消費量 →113 機械損料数量 →1.45
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →120 機械損料数量 →1.45
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →88 機械損料数量 →1.45
クレーン付台船	クローラークレーン 35~40t 吊 台船 300 t 積	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラークレーン) 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.45 (台船) 機械損料数量 →1.45
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.21 主 燃 料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工 (ハット形鋼矢板)

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (5) [略]

⑰ 油圧圧入引抜工

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (6) [略]

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 1000kN 引抜力 1100kN	機-24	燃料消費量 →202 機械損料数量 →1.45
〃	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 広幅鋼矢板用 圧入力 981~1471kN 引抜力 1079~1569kN	機-24	燃料消費量 →132 機械損料数量 →1.45
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325 ℓ/min	機-24	燃料消費量 →120 機械損料数量 →1.45
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型(第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →107 機械損料数量 →1.45
クレーン付台船	クローラークレーン 35~40t 吊 台船 300 t 積	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラークレーン) 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.45 (台船) 機械損料数量 →1.45
引 船	鋼製 D 100PS 型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.21 主 燃 料 →重油

⑱ 油圧圧入引抜工 (ハット形鋼矢板)

1. ~ 5. [略]

6. 単価表

(1) ~ (5) [略]

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) ハット形鋼矢板 900mm用 圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN	機-24	燃料消費量 →170 機械損料数量 →1.45
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量 →120 機械損料数量 →1.45
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →88 機械損料数量 →1.45
クレーン付台船	クローラクレーン 35~40t吊 台船 300t積	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラクレーン) 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.45 (台船) 機械損料数量 →1.45
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.21 主 燃 料 →重油

## ⑨ 油圧圧入引抜工 (硬質地盤)

1. ~7. [略]

## 8. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃料消費量 →176 機械損料数量 →1.45
〃 (鋼矢板VL・VIL・IIw・IIIw・IVw型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第2次基準値)	機-24	燃料消費量 →170 機械損料数量 →1.45

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 (第3次基準値) ハット形鋼矢板 900mm用 圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN	機-24	燃料消費量 →202 機械損料数量 →1.45
杭打ち用ウォーター ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量 →120 機械損料数量 →1.45
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第2次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →107 機械損料数量 →1.45
クレーン付台船	クローラクレーン 35~40t吊 台船 300t積	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 (クローラクレーン) 燃料消費量 →45 機械損料数量 →1.45 (台船) 機械損料数量 →1.45
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT	機-11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 機械損料単位 →供用日 運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量 →1.21 主 燃 料 →重油

## ⑨ 油圧圧入引抜工 (硬質地盤)

1. ~7. [略]

## 8. 単価表

(1)・(2) [略]

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第3次基準値) 普通鋼矢板圧入用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	機-24	燃料消費量 →208 機械損料数量 →1.45
〃 (鋼矢板VL・VIL・IIw・IIIw・IVw型 用)	エンジン式ユニット (硬質地盤専用) 排出ガス対策型 (第2次基準値)	機-24	燃料消費量 →202 機械損料数量 →1.45

	広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN		
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>120</u> 機械損料数量 →1.45

⑳ [略]

	広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN		
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 50~51 t 吊	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 → <u>139</u> 機械損料数量 →1.45

⑳ [略]